

聖ヴォルフガング没後千年祭にみるドイツ南部のカトリック巡礼

小田 匡保

I. はじめに

今ヨーロッパのカトリック巡礼(地)で著名なものを挙げるとするならば、歴史的にはまずサンチャゴ=デ=コンポステラやローマが思い浮かぶ。また、現在多くの巡礼者を集めている巡礼地としては、ルルド・ファティマといった19世紀以降の新しい巡礼地の名前が挙がろう。これらの巡礼(地)については、写真集・翻訳も含めて、いくつかの著作がすでに日本で出版されている。

ところが、ヨーロッパのカトリック巡礼は、このような大きなものにとどまらない。このことについて注意を喚起してきたのは河野¹⁾である。彼は、「西ヨーロッパのカトリック教会圏の巡礼慣習については、特定の著名な大巡礼地への参詣行為に限定して理解がなされている」、あるいは「著名かつ巨大な霊場への訪れが、巡礼の典型的なあり方と考えられている」と指摘する²⁾。そして、これら大巡礼地とは異なる在地巡礼の特徴について、さまざまな視点から説明を加え、中世や現代の大巡礼もそれら巡礼慣習全体の中に位置づけて考えねばならないと述べる。民俗学を中心にドイツ語の研究文献を渉猟し、在地巡礼について述べた彼の論考には、教えられるところが多い。

しかし、河野の主張にいまひとつ説得力が欠けるうらみがあるのは、読者の土地勘・予備知識が乏しいということを差し引いても、彼がドイツ語圏の既往の研究の紹介に多くのページをさき、みずからのオリジナルなデータに基づく立論・分析がほとんどないということに起因していると思われる。そういう点からは、個別の巡礼(地)に関する詳細なデータの提供ということも、今後の議論の拠り所としてまた意味のあることであろう。さらにそこから、カトリック巡礼(地)全体に関して何らかの一般性を持った事柄が導き出せるならば、大きな成果とすべきであろう。

そこで本稿では、最近筆者が身近に観察する機会を得た聖ヴォルフガング(hl. Wolfgang)巡礼をとりあげ、現在のドイツ南部におけるカトリック巡礼の一端を報告することを第一の目的とする。その際、後の分析に関係するしないを問わず、巡礼のさまざまな側面について記述することにしたい。これは、キリスト教とは異なる文化圏に属する人間にとって、研究対象たるカトリック巡礼がどのようなものであるかを、まずイメージできることが重要であると考えからである。そしてさらに、いくつかの事例を検討することによって、聖ヴォルフガング巡礼の特徴を浮かび上がらせることを第二の目的とする。

聖ヴォルフガングという人物については後で触れるが、本稿で聖ヴォルフガング巡礼をとりあげた理由を簡単に説明すると、1994年が聖ヴォルフガングの没後千年にあたっており、その千年祭(Tausendjahrfeier)の諸行事が、巡礼も含めて、ドイツ南部を中心に、彼に関係する場所で数

多く行なわれたことによる。特にレーゲンスブルク（Regensburg）は、彼の遺骸のあるところであり、また彼をレーゲンスブルク司教区の守護聖人（Patron）としていることもあって、多くの関連行事が催された。その中にはレーゲンスブルクに巡礼に来るものもあり、またレーゲンスブルクから彼ゆかりの地へ巡礼に行くものもあった。

レーゲンスブルクはドイツ南部バイエルン（Bayern）州のほぼ中央、ドナウ川（Donau）の沿岸に位置する。人口約13.8万人（1993年5月現在）³⁾の中都市で、行政面ではオーバーファルツ（Oberpfalz）県の県庁所在地であり特別市（kreisfreie Stadt）、カトリックのうえではレーゲンスブルク司教区（Diözese, Bistum）の中心でもある（図1参照）。

II. 聖ヴォルフガングについて

まず最初に、信仰の対象となっている聖ヴォルフガングについて紹介しておく⁴⁾（写真1）。聖ヴォルフガングは、10世紀にレーゲンスブルク司教区の司教（Bischof）だった人物であり、レーゲンスブルク司教区の守護聖人⁵⁾である。925年頃にロイトリンゲン（Reutlingen）近郊のフリンゲン（Pfullingen）で、普通家庭に生まれた。小さい時から勉強好きで才能があったので、10



図1 レーゲンスブルクの位置

点線で囲んだ領域はレーゲンスブルク司教区

Fig. 1. The location of Regensburg.
The area surrounded by dotted line is Regensburg Diocese.



写真1 聖ヴォルフガング像

聖エメラム教会内にて
Photo 1. A statue of Saint Wolfgang in
the St. Emmeram Church in
Regensburg.

歳くらいで両親は彼を、ボーデン湖(Bodensee) 畔コンスタンツ(Konstanz) 西方のライヘナウ(Reichenau) の修道院付属学校(Klosterschule)へやった。ライヘナウの修道院付属学校は、当時ヨーロッパで最も有名な学校のひとつに数えられていたところである。ここで彼は、ハインリッヒ=フォン=バーベンベルク(Heinrich von Babenberg) と親友になる。この人間関係は、ヴォルフガングの前半生に大きな影響を与える。

ハインリッヒの兄ポッポ(Poppo) が、941年にヴェルツブルク(Würzburg) 司教になり、大聖堂付属学校(Domschule) を創設すると、ハインリッヒとヴォルフガングはそこへ移り、勉強を続ける。956年、ハインリッヒはオットー1世(Otto I.) によって、トリーア(Trier) 大司教に任命される。ハインリッヒ大司教は親友ヴォルフガングを協力者としてトリーアに呼び、彼がまだ聖職者ではないのにもかかわらず、大聖堂付属学校の管理と若い聖職者の教育を委ねる。さらに後には、大聖堂参事会首席(Domdekan) まで引き受け聖職者の指導にあたることになる。彼はここで、ロレーヌ地方のゴルツェ(Gorze) 修道院から起こった改革運動を導入しようとするが、私有財産廃止などの厳しい規律は周囲に受け入れられず、冷眼視される。

ハインリッヒ大司教は、オットー1世の戴冠(962年、神聖ローマ帝国の始まり) に同行するためローマへ赴き、それに続く戦争の最中に、964年イタリアで病死する。死の床でハインリッヒ大司教は、オットー1世に親友ヴォルフガングのことを頼む。そこでオットー1世は、ヴォルフガングをケルン(Köln) の皇帝官房(Kanzlei) に招き、彼はここで権力中枢部の官僚として働く。当時皇帝官房は、オットー1世の兄弟であるブルーノ(Bruno) ケルン大司教の指揮下にあったが、彼はヴォルフガングに司教の座を提供しようとする。しかし、ヴォルフガングはそれを断り、別の道を歩む。

966年頃に、彼はアインズィーデルン(Einsiedeln) (現スイス) のベネディクト会修道院の門をたたき、修道士(Mönch) となる。当時この修道院は、規律の厳しさで知られており、またグレゴール(Gregor) 修道院長(Abt) はゴルツェ改革運動の支持者であった。ヴォルフガングはここで、アウグスブルク(Augsburg) のウルリッヒ(Ulrich) 司教と知り合いになり、968年彼によって司祭(Priester) に叙階される。この時ヴォルフガングは43歳であった。

ヴォルフガングはアインズィーデルンで修道院付属学校の教師になるが、それには飽きたらず、971年修道院長の許しを得て、ハンガリーへの宣教に出かける。ハンガリーは955年レヒフェルト(Rechfeld) の戦いでオットー1世に敗れていたが、まだキリスト教化されていなかった。ヴォルフガングの孤独な試みは、しかし政治的な後ろだてがなかったこと、教会政策上の問題があったこともあって失敗する。当時ハンガリーは、パッサウ(Passau) のピルグリム(Pilgrim) 司教が自分の勢力範囲にしようと考えており、彼はそこを歩き回っているヴォルフガングを自分のもとに呼びつける。ところが、そこでヴォルフガングはピルグリム司教に好印象を与えたようで、971年9月レーゲンスブルクのミヒャエル(Michael) 司教が死んだ時、ピルグリム司教はレーゲンスブルクの新司教にヴォルフガングを提案する。オットー1世の息子オットー2世(Otto II.) はこ

の意見をいれ、972年のクリスマスにフランクフルト（Frankfurt）で、ヴォルフガングをレーゲンスブルク司教に叙任（Investitur）する。973年の1月には、レーゲンスブルクで司教叙階される。時にヴォルフガング、48歳くらいの頃である。

ヴォルフガングは、ここレーゲンスブルクで20年以上にわたって司教として活動する。その活動の中で最も重要なものは、レーゲンスブルク司教区からボヘミア（Böhmen）地方を分割して、プラハ（Praha, Prag）司教区を創設したことである（973年）。また、レーゲンスブルク司教職と聖エメラム（St. Emmeram）修道院長職とを分離する（974/975年）。彼は、トリーアで知り合った友人ラムヴォルト（Ramwold）をレーゲンスブルクに呼び修道院長に据えて（975年）、ともに修道院改革運動を推進し、レーゲンスブルクは南ドイツにおけるゴルツェ改革運動の中心となる。また、聖エメラム修道院に図書館を新設し、学問をすすめる。

994年秋、ヴォルフガングはオーストリアの司教区所領を訪ねようとする。ドナウ川の船上で彼は高熱に襲われ、10月31日にリンツ（Linz）の近くのプッピング（Pupping）で亡くなる。約70歳であった。彼の遺体は、7日後レーゲンスブルクに到着し、聖エメラム修道院に埋葬される。約60年の歳月の後、すなわち1052年10月、教皇レオ9世（Leo IX.）によって聖人の列に加えられている（Heiligsprechung）。

聖ヴォルフガングに対する信仰は、しかしながら、彼の遺骸のあるレーゲンスブルクではなく、オーストリアにあるヴォルフガング湖（Wolfgangsee, 別名アーバー湖 Abersee）畔ザンクト＝ヴォルフガング（St. Wolfgang）⁶⁾で、14世紀頃からさかんになる。その背景には、所領地紛争に勝利したモンドゼー（Mondsee）修道院が、聖ヴォルフガングの恩恵に感謝して、聖ヴォルフガング信仰をすすめたという事情があるようである。この付近は聖ヴォルフガングが隠れ住んだとの伝承を持っており、中世にはヨーロッパ有数の巡礼地であった。ここから、オーストリア・ドイツ・スイス・ボヘミア・ハンガリーの各地に、聖ヴォルフガング信仰が広がっていき、彼を守護聖人にした教会や礼拝堂も多く建立されている。

Ⅲ. 聖ヴォルフガング没後千年祭の諸行事と巡礼の特徴

1. 没後千年祭の諸行事——巡礼を中心に

上に述べたように、聖ヴォルフガングに対する信仰はドイツ南部・オーストリアなどに広くひろがっており、聖ヴォルフガング没後千年祭の諸行事も、レーゲンスブルクのみならず、レーゲンスブルク司教区の他地区、それ以外の彼に関係するいくつかの場所で行なわれている。しかし以下においては、千年祭行事の中心地であったレーゲンスブルクに焦点を当てて検討していくことにする。

レーゲンスブルク関係の多くの行事のうち、新聞報道などから判断して、重要視されているのは次の三つである。すなわち、①アインズィーデルンへの司教区巡礼（Diözesanwallfahrt）、②レーゲンスブルクにおける記念年のための祝祭週間（Festwoche）、③聖ヴォルフガングの聖遺物

箱 (Reliquenschrein) のプッピング移送とレーゲンスブルク司教区からのプッピング巡礼である。

以下、これら三つの行事について、特に巡礼に重点を置きながら、その概要を述べていきたい。資料としては、主にレーゲンスブルク司教区の機関紙「レーゲンスブルク司教区新聞」(週刊)⁷⁾と、レーゲンスブルク発行の地元紙「中部バイエルン新聞」(日刊)⁸⁾の掲載記事を使用する。

①アインズィーデルンへの司教区巡礼⁹⁾

アインズィーデルンは、上述のように、聖ヴォルフガングが政治の世界からいったん足を洗って、修道士として聖職者の道に入ったところであり、人生の転機の地とも言えるところである。966年頃にここで修道士となり、971年にハンガリー伝道に行くまでここに滞在している。アインズィーデルンは、地理的にはチューリッヒ(Zürich)の南南東約30kmに位置し、シュヴィッツ(Schwyz)州に属する。人口約1万人。バロック建築のすばらしいベネディクト会大修道院(Benediktinerabtei)がある。ここの黒マリア像には、国外からも巡礼者が多数訪れ、スイス第一の巡礼地としても名高い¹⁰⁾。

アインズィーデルンへの司教区巡礼は、5月26日(木)~29日(日)にかけて行なわれた。3泊4日の行程を最初にかいつまんで紹介しておく、1日めはレーゲンスブルクからアインズィーデルンに鉄道で移動、2日めはアインズィーデルンに滞在、3日めはバスで巡礼地ザクセルン(Sachseln)・フリューエリ(Flüeli)¹¹⁾に出かけ、4日めにアインズィーデルンからレーゲンスブルクに戻っている(図2参照)。アインズィーデルン巡礼のついでに訪れるザクセルン・フリューエリは、スイスの守護聖人である修道士クラウス(Bruder Klaus)¹²⁾関係の巡礼地である。

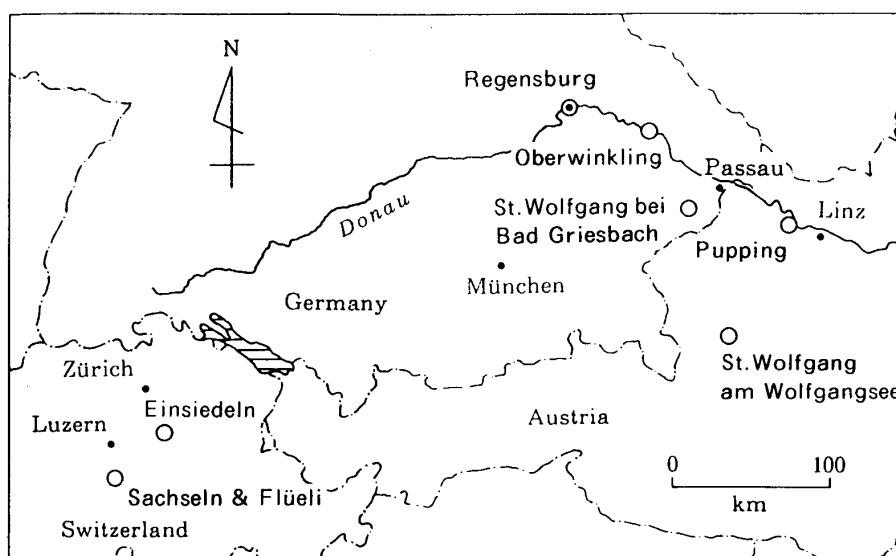


図2 レーゲンスブルクからの巡礼地の位置

Fig. 2. The location of pilgrim places to which people in Regensburg made a pilgrimage in 1994.

巡礼団の参加者数は445名。両親と一緒に10歳の男の子もいる。リーダー（Leitung）は、レーゲンスブルク司教区のミュラー（Müller）司教である。司教区からの重要な人物としては、他にグッゲンベルガー（Guggenberger）補佐司教（Weihbischof）、司教区巡礼部長（Diözesanpilgerleiter）のフェルクル（Völkl）大聖堂助任司祭（Domvikar）がいる。司教区巡礼ということにはなっているが、巡礼実施の実務はミュンヘン（München）のバイエルン巡礼局（Bayerisches Pilgerbüro）で扱っており、そのパンフレット¹³⁾ではレーゲンスブルク司教区以外の人にも参加を募っている。バイエルン巡礼局からは、5人の世話係が来ている。

以下、巡礼の経緯を詳細に述べると、5月26日（木）午前8時に特別列車がヴァイデン（Weiden）¹⁴⁾を出発。シュヴァンドルフ（Schwandorf）・レーゲンスブルク・ノイファーン（Neufahrn）・ランツフート

（Landshut）・ミュンヘンなどで巡礼者を乗せ、リンダウ（Lindau）・ザンクト＝ガレン（St. Gallen）経由で、アインズィーデルンに午後4時頃到着。アインズィーデルンの巡礼担当者（Wallfahrtskustos）であるルステンベルガー（Lustenberger）修道司祭（Pater）が巡礼旗（Wallfahrtsfahne）を持って駅へ迎えに来る。巡礼旗にはマリア像が描かれている。巡礼旗を先頭に修道院教会まで行列（写真2）。引き続いて、教会（バジリカ）のマリア礼拝堂（Gnadenskapelle）でミュラー司教とともに礼拝（Andacht）がある。ルステンベルガー修道司祭も歓迎の挨拶。

翌5月27日（金）は、午前中バジリカでミュラー司教が祝祭ミサ（Festgottesdienst）¹⁵⁾を司式する。説教の中で司教は、聖ヴォルフガングがベネディクト会の原則「祈り働け」を体現したと述べ、巡礼者もこれをモットーとしなければならないと説く。午後はアインズィーデルンの歴史について、スライド付きの講演を聞く。それ以外の時間は自由行動で、各自アインズィーデルンの周辺や町中を散策する。資料の司教区新聞には、この日のミサの前に、ミュラー司教がポーランドのワレサ（Walesa）大統領夫人と偶然、教会の聖具室（Sakristei）で出会い、神の祝福を祈ったというエピソードも写真入りで紹介されている。夫人は、大統領がチューリッヒで経済界の代表者と交渉している間、有名なこの巡礼地を訪ねたのだという。

3日め5月28日（土）は、まる一日遠出の日である。朝バスを連ねてアインズィーデルンを出発し、ルツェルン（Luzern）経由でザクセルンに到着。ここの小教区教会（Pfarrkirche）には祭

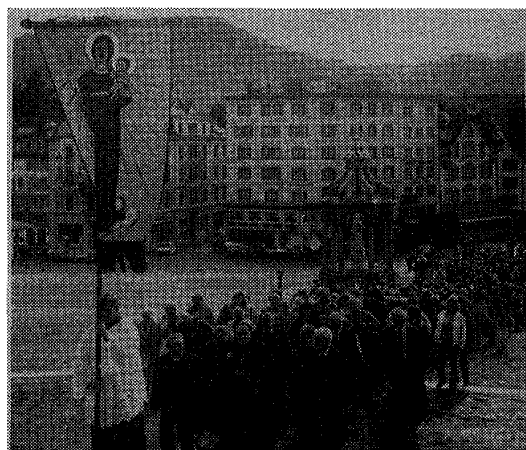


写真2 アインズィーデルンへの司教区巡礼
巡礼旗を先頭に修道院教会前へ行列するところ
(*Regensburger Bistumsblatt* 5. Juni 1994の報道記事)

Photo 2. A diocesan pilgrimage to Einsiedeln:
a procession to the cloister church following the pilgrim flag.

According to *Regensburger Bistumsblatt* 5
June 1994.

壇に修道士クラウスの遺骸があり、グッゲンベルガー補佐司教を筆頭ミサ司式司祭（Hauptzelebrant）としてミサ（Gottesdienst）を行なう。説教では、修道士クラウスの生涯について触れられ、彼がスイスを戦争の危機から守ったことを引き合いに、巡礼者に平和を創造することが期待される。ザクセルンの後はさらにフリーエリへ行き、修道士クラウスゆかりの場所を訪ねる。彼の生家、彼の結婚に際して建てた家、19年間食事をとらず聖体拝領のみで生活した庵などを見学する。午後は再びルツェルンを経て、午後7時頃アインズィーデルン到着。バジリカ前で、ヴェーバー（Weber）司教区音楽監督指揮のもと、レーゲンスブルク司教区の教会聖歌隊（いろいろな小教区から集まった今回限りのもの）によって、司教に捧げる歌が歌われる。レーゲンスブルクのブラスバンドも聴衆を魅了する。この教会聖歌隊とブラスバンドは、ミサ（Gottesdienst）の時にも演奏をしている。

最終日5月29日（日）は、朝バジリカ内で、ミュラー司教によって司教歌ミサ（Pontifikalamt）が行なわれる。この日は三位一体（Dreifaltigkeit）の日にあたり¹⁶⁾、司教の説教でも聖三位一体について説かれる。ミサの最後に、巡礼者が持参した礼拝物（Andachtsgegenstand）に、祝福の言葉（Segen）が唱えられている。午前10時30分頃アインズィーデルンを鉄道で出発。往路と同じ経路を引き返す。ミュンヘン・レーゲンスブルクなどを経由して、最終駅ヴァイデンに着くのが午後6時30分頃である。

全体の行程を見てみると、アインズィーデルンへの司教区巡礼は聖ヴォルフガングの遺跡を訪ねるという目的以外に、アインズィーデルンのマリアへの巡礼、ザクセルン・フリーエリの修道士クラウスへの巡礼という性格もあわせもっていることがうかがえる。しかし、巡礼における崇拜対象の多様性、巡礼ルートの周遊性などは本稿の主題とするところではないので、ここではデータを提示するだけにとどめておきたい。

②祝祭週間

二つめの、そして最大の聖ヴォルフガング没後千年祭行事は、「成聖——それが神の欲するもの」（テサロニケ人への第一の手紙4,3）をモットーに、6月25日（土）～7月3日（日）の九日間にわたって繰り広げられた祝祭週間¹⁷⁾である。レーゲンスブルクでは毎日さまざまな行事が催されたが、公式の予定表（抜粋）は表1のとおりである¹⁸⁾。期間中に多く見られる行事はミサと巡礼であるが、各種カトリック系団体や年齢階層ごとに日を振り分けていることが看取されよう。また場所は、聖ヴォルフガングの遺骸のある聖エメラム教会が中心となっている（表1中で場所を明記していない行事は、すべて聖エメラム教会で行なわれる）。これらの行事のうち最大のクライマックスは、祝祭週間最後の7月3日（日）に大聖堂前広場（Domplatz）で行なわれる祝祭ミサである。その重要性は、筆頭ミサ司式司祭が、ローマ教皇から遣わされたラッツィンガー（Ratzinger）枢機卿（Kardinal）であることで理解されよう。さらに、ミュラーレーゲンスブルク司教以外に、バイエルン州の他の六つの司教区¹⁹⁾からも、すべて司教または補佐司教が来て共同司式している。

表1 祝祭週間中の諸行事
Table 1. Events in the feast week

6月25日(土)	「聖エメラム教会で開幕」「青少年巡礼」プッピング小教区のミサ 青少年ミサ 司教ミサ
6月26日(日)	「KDFBの婦人巡礼」集会(於聖エメラム教会) 司教ミサ(於大聖堂) 聖体顕示と祈りの時間(於聖エメラム教会) カリスマ信徒会のミサ
6月27日(月)	「司祭の日」司教ミサ 司祭会議(於コルピングハウス) 晩課(於ニーダーミュンスター教会) コルピングファミリー地区連盟のミサ
6月28日(火)	「聖職者の祈りの日」PWBのミサ ギムナジウム5年生の聖エメラム教会訪問 大学信徒会のミサ
6月29日(水)	ギムナジウム5年生の聖エメラム教会訪問 司教による礼拝と子供の祝福(特にKDFBレーゲンスブルク地区の)婦人のミサ
6月30日(木)	「老人巡礼」ミサ(於大聖堂) ギムナジウム5年生の聖エメラム教会訪問 男子団体(MMC, Kath. Casino, 男子会)のミサ
7月1日(金)	「修道者の日」元修道院長のミサ 聖体顕示と祈り(於聖ルーペルト教会) 晩課 K A Bの巡礼 外国人労働者家庭の司教ミサ
7月2日(土)	「司祭叙階の日」司教ミサと司祭叙階(於大聖堂) ミサ(於聖エメラム教会)
7月3日(日)	ラッツィンガー枢機卿の祝祭ミサ(於大聖堂前広場)

資料：注18)。

バイエルンテレビでも生中継され、新聞報道での扱いもこれがいちばん大きい。

しかし、巡礼を主テーマとする本稿では、祝祭週間の諸行事のうち、巡礼関係のものに焦点を絞りたい。もちろん行事が何であれ、遠隔地から参詣すれば、それは巡礼になるのだが²⁰⁾、本稿では表1で巡礼と表記されているものに限定したい。すなわち、青少年巡礼(Jugendwallfahrt)、KDFBの婦人巡礼(Frauenwallfahrt)、老人(Senioren)巡礼、それにK A Bの巡礼の四つである。また、プッピング小教区(Pfarrei)のミサも、明らかにプッピング(オーストリア)からの巡礼である。これらのうち青少年巡礼についてはIV章で詳述することにし、本章ではそれ以外の4種の巡礼について述べることにしたい。

a. 婦人巡礼²¹⁾

レーゲンスブルクへの婦人巡礼は、祝祭週間2日めの6月26日(日)に、カトリックドイツ婦人連合(KDFB)²²⁾司教区連盟(Diözesanverband)の主催で行なわれた(写真3)。モットーは「聖ヴォルフガング1000年——婦人は途上に」。参加者は司教区の全地区から約5000人。90台以上のバスでレーゲンスブルクに集まった。さまざまな地点から同時に同じ目的地に向かう一斉巡礼(Sternwallfahrt)である。主な行程は、午前10時に聖エメラム教会に集まり、そこから大聖堂(Dom)まで市内を行列した後、午前11時から大聖堂で司教ミサ(Pontifikalgottesdienst)があるというものである。



写真3 婦人巡礼参加を呼びかけるポスター

レーゲンスブルク西南西約25kmのエッスィング (Essing) にて

Photo 3. A poster of women's pilgrimage.



写真4 祝祭週間中の婦人巡礼

レーゲンスブルク市内を行列するところ

(*Mittelbayerische Zeitung* 27. Juni 1994の報道記事)

Photo 4. Women's pilgrimage in the feast week: a procession in the city.

According to *Mittelbayerische Zeitung* 27 June 1994.

午前10時聖エメラム教会で大集会 (große Statio)。この前に、参加者はあらかじめ駅など5カ所に集合し、そこから集団で歩いて聖エメラム教会とエメラム広場 (Emmeramsplatz) に向かう。聖エメラム教会での15分ほどの大集会を指揮するのは、ヘーグルマイヤー (Heglmeier) 司教区委員長 (Diözesanvorsitzende)、司教区顧問 (Diözesanbeirat) のエンゲルマイヤー (Englmeier) 大聖堂助任司祭、ウルリッヒ (Ullrich) 都市小教区司祭 (Stadtpfarrer) (ザンクト=エメラム小教区司祭) である。10時30分、聖エメラム教会から大聖堂までの行列が出発する。各地区ごとにKDFBの旗を掲げ、祈りの言葉を唱えながらの行進である (写真4)。集会、行列、ミサの時の祈禱文や歌は、巡礼用の冊子にまとめて配布されている。

地元のKDFBレーゲンスブルク市支部²³⁾では、これとは別に、9時30分から市内の四つの場所で小集会 (kleine Statio) を行なっている。それぞれの場所ごとに女性関係のテーマがあり、意見を交換しようというものである。具体的には、旧市役所で「婦人と政治参加」、聖マリアギムナジウムで「婦人と教育」、ユダヤ人協会で「婦人と信仰」、亡命希望者住宅で「婦人と外国人連帯」というテーマが掲げられている。この集会の後、参加者は大聖堂へと向かう。

午前11時から大聖堂で、ミュラー司教司式の司教ミサがある。地区代表は旗を掲げて、中央祭壇の前に並ぶ。共同ミサ司式司祭は、かつて司教区顧問でもあったグッゲンベルガー補佐司教、現顧問のエンゲルマイヤー大聖堂助任司祭などである。説教の中でミュラー司教は、婦人は信仰を子供たちに伝えていく責任を担っていると述べている。それに続く献納 (Gabenbereitung) の際には、青少年施設を援助するシンボルとして、おもちゃや衣類が、29人の地区代表によって祭壇に置かれ

る。「国際家族年」とも関連づけようというねらいのようである。行事終了時刻は午後1時である。

b. 老人巡礼²⁴⁾

老人巡礼は、6月30日(木)に司教区カリタス会(Diözesan-Caritasverband)²⁵⁾の主催で行なわれた。参加者約1200人が21台のバスでレーゲンスブルクに来ている。婦人巡礼と同じく、一斉巡礼である。午前10時からの大聖堂でのミサ(Gottesdienst)には、わざわざこのために、聖エメラム教会から聖ヴォルフガングの聖遺物箱が運ばれてきている。ミサの司式はグッゲンベルガー補佐司教、ヒュットナー(Hüttner)司教区カリタス会長(Diözesan-Caritasdirektor)他である。

c. KABの巡礼²⁶⁾

KAB(カトリック労働者運動)²⁷⁾は、ドイツ人以外に外国人も含む組織である。このKABの司教区巡礼は、「祈り働け(Ora et labora)」をモットーに7月1日(金)の夕刻に行なわれた(写真5)。参加者の大多数は、職場から直接聖エメラム教会にかけつけて来た。午後7時30分より聖エメラム教会で司教ミサ(Pontifikalgottesdienst)があり、75の地区連盟(Ortsverband)が参加²⁸⁾。地区代表は、それぞれのKABの旗を掲げて、教会前方へ入場行進する。司式は、ミュラー司教の他、パッペンベルガー(Pappenberger)KAB司教区指導司祭(Diözesanpräses)、ヒュットナー司教区カリタス会長、ウルリッヒ都市小教区司祭、それにアントナク(Antonac)クロアチア宣教司祭、アルベルト(Alberto)スペイン宣教修道司祭などである。

ミサは、ドイツ人と外国人との連帯を表わすため、スペイン語・クロアチア語も交えて行なわれ、主禱文(Vaterunser)はラテン語が使われる。司教の説教でも、経営者と労働者、外国人とドイツ人など、人間の相互理解が強調される。また、今回の巡礼のモットーである「祈り働け」の原則を作った聖ベネディクト(hl. Benedikt)にも触れ、彼が労働の尊さを説いたことを述べている。献納(Gabenprozession)では、ドイツ人・スペイン人・クロアチア人の子供たちが、パンとぶどう酒のほかに、団結のシンボルとして花を司教に手渡す。ミサの最後に、パッペンベルガーKAB司教区指導司祭の挨拶がある。ミサ終了後、教会の庭でドイツ人と外国人の出会いの会が開かれている。

d. プッピングからの巡礼²⁹⁾

プッピング小教区からの巡礼団は、祝祭週間最初の6月25日(土)にレーゲンスブルクに来ている。参加者97名、バス2台。引率はカロルス(Karolus)修道司祭である。午前9時30分より聖エメラム教会のヴォルフガング地下聖堂(Wolfgangskrypta)でミサ(Eucharistiefeier)を行ない、

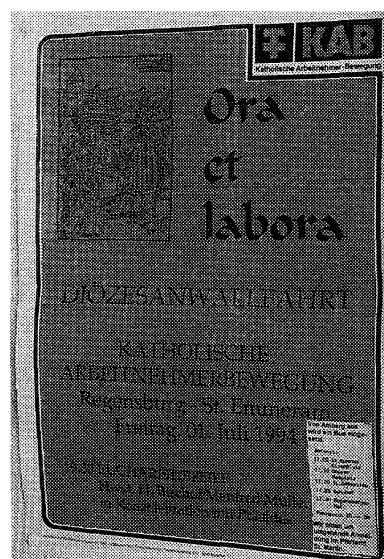


写真5 KAB巡礼参加を呼びかけるポスター

アンベルクにて

Photo 5. A poster of KAB (Catholic Laborer Movement) pilgrimage.

その後11時45分、司教区事務局（Bischöfliches Ordinariat）にミュラー司教を訪ねている。司教は巡礼団を付属礼拝堂（Hauskapelle）に招き入れ、ともに祈っている。

以上、祝祭週間中に見られた4種の巡礼について述べたが、このうちa～cは、司教区のカトリック系団体が企画したものである。しかもいずれも、司教区を中心レーゲンスブルクに向かう一斉巡礼である。これに対してdは小教区を単位とし、そこから遠方に出かける巡礼である。同じ巡礼といっても、二つのタイプの存在することが、すでにこれらの事例で推測されよう。

③レーゲンスブルク司教区からのプッピング巡礼³⁰⁾

三つめの聖ヴォルフガング没後千年祭行事として、レーゲンスブルク司教区からのプッピング巡礼をとりあげる。プッピング（オーストリア）は、上述の如く、聖ヴォルフガングの没地である。リンツの西方約20kmに位置し、ドナウ川右岸にほど近い集落である。このプッピングへの司教区巡礼自体は9月25日（日）にあるのだが、関連行事は9月23日（金）から始まっている。プッピング巡礼はこれらの行事に付随して行なわれるものなので、ここでは23日から始まる一連の動きの経過を追ってみたい。

最初に行事全体の概要を述べておくと、9月23日（金）、聖ヴォルフガングの聖遺物箱（写真6）を、自動車と一部船を使って、レーゲンスブルクからプッピングに移送する。この船を使うというところが呼び物で、というのは、聖遺物箱のドナウ川下り（そしてさらにプッピングまでの道のり）が聖ヴォルフガングの最期の旅を再現しているからである。9月25日（日）にプッピングでミサがあり、これに巡礼団が参加する。さらにレーゲンスブルクへの帰途、聖遺物箱と巡礼団はある聖ヴォルフガング教会に立ち寄るといふものである（図2参照）。

9月23日（金）午前11時30分、聖遺物箱は聖エメラム教会を車で出発。パッサウを経てオーストリアに入り、午後1時30分、国境近くに位置するエンゲルハルツツェル（Engelhartszell）³¹⁾の修道院教会で礼拝（Andacht）がある。レーゲンスブルク司教区のグッゲンベルガー補佐司教も同席。礼拝終了後、行列を組んで聖遺物箱を栈橋まで持って行き、そこから船に乗せる。午後2時30分出発。船上は30人の人で、うち20人がレーゲンスブルク司教区から、10人がプッピングからである。グッゲンベルガー補佐司教、ウルリッヒ都市小教区司祭をはじめ聖職者も同乗し、船上でも礼拝（Andacht）。船が通過するドナウ川沿いの多くの村では教会の鐘が鳴り、司祭や信徒が船着き場で聖人に敬意を表す。4時間のドナウ川の船旅を経て、午後6時30分、エーフェルディング

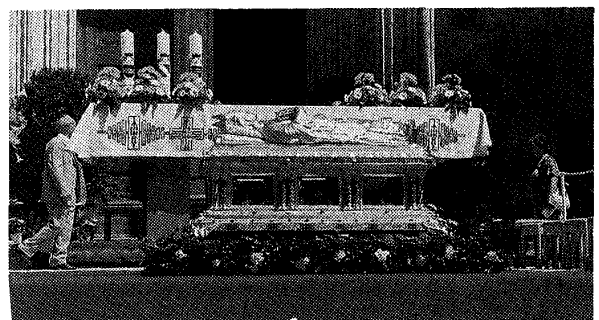


写真6 聖ヴォルフガングの聖遺物箱

祝祭週間最終日の大聖堂前広場でのミサにて撮影したもの
Photo 6. The relic's shrine of Saint Wolfgang.
A photo taken in the service in the Cathedral Square
on the final day in the feast week.

(Eferding) 近くの通称「火事場 (Brandstatt)」に接岸する。ここは、かつて聖ヴォルフガングが、オーストリアへの旅の途中、死期を悟って、船をつけさせたと言われるところである。ここから 3 km の夜道を、再び行列を組んで、没地プッピングまで聖遺物箱を運ぶ。随行者は、プッピングの人々、レーゲンスブルクからやって来た人々、それにリンツ司教区のアイヘルン (Aichern) 司教である。午後 7 時 30 分、プッピングでは引き続き司教歌ミサ (Pontifikalamt) がある。聖ヴォルフガングは、ここプッピングのオトマル (Othmar) 礼拝堂で死んだという。

9 月 24 日 (土) にもさまざまな礼拝 (Gottesdienst) のあった後、9 月 25 日 (日) には、午前 9 時 15 分からプッピングで司教歌ミサ (Pontifikalamt) が行なわれる。司式は、ミュラーレーゲンスブルク司教とアイヘルンリンツ司教で、リンツ大聖堂聖歌隊とブラスバンドが音楽を受け持っている。このミサの様子は、9 時 15 分～10 時 15 分の間、ドイツ第 2 テレビ (ZDF) とオーストリア国営放送 (ORF 1) のテレビで生中継されている。これにレーゲンスブルク司教区からの巡礼団が参加している。司教区で組織しているバス (ただし、実務は市内の旅行社が担当) は、日帰りで、ヴァイデン・レーゲンスブルクなどで参詣者を乗せている。

午後 1 時 30 分、別れの短い礼拝 (Andacht) の後、聖ヴォルフガングの聖遺物箱と巡礼団は、1 時 45 分プッピングを出発。午後 2 時 45 分パッサウの国境通過地点に到着し、パッサウ司教区のエーダー (Eder) 司教の出迎えを受ける。実はこれからもうひとつの山場があって、帰路バート＝グリースバッハ (Bad Griesbach) 近くの聖ヴォルフガング教会³²⁾ に立ち寄るのである。午後 3 時に自動車 30 台の隊列を組んでパッサウを出発。フルステンツェル (Fürstenzell), シュミートゥハム (Schmidham), ロイテルン (Reutern), グリースバッハを経由して、午後 3 時 30 分ヴェング (Weng) に到着。ここから 20 分の坂道を、聖遺物箱を馬車に乗せて、行列を組んで聖ヴォルフガング教会へ登るといふ趣向である。午後 4 時から教会前で、エーダーパッサウ司教とミュラーレーゲンスブルク司教の司式のもと、礼拝 (Vesper) が行なわれている。この教会は、1454 年に、当時の小教区司祭 (Pfarrer) が、聖ヴォルフガングへの信仰から建立したとの伝承がある³³⁾ が、現在は聖修道士コンラート (hl. Bruder Konrad)³⁴⁾ が洗礼を受けたところとして知られている。礼拝の後には、婦人連盟 (Frauenbund) の準備したバイエルン料理に舌鼓を打ち、一連の行事を終わっている。

以上のプッピング関連の行事は、巡礼よりも聖ヴォルフガングの聖遺物箱の移送が中心となっており、巡礼の事例としては特殊かもしれない。しかし、何らかの宗教行事を契機として巡礼が行なわれるという点では、祝祭週間中のレーゲンスブルク巡礼と同じ範疇に入ると言えよう。

④ 没後千年祭関係のその他の巡礼

以上述べてきたもの以外にも、聖ヴォルフガング没後千年祭の行事は多い。①～③はいずれもレーゲンスブルクを中心に見てきたが、レーゲンスブルク以外の場所でも各種の行事が行なわれている。行事の内容も、ミサ・巡礼などの宗教行事の他に、聖ヴォルフガング関係の各種展示³⁵⁾,

テレビ・ラジオの特集番組³⁶⁾、記念切手発行³⁷⁾、本・パンフレットの出版³⁸⁾など、多岐にわたっている。それらの中で、ここではレーゲンスブルクへ（から）の主な巡礼のみを拾いだし、以下に月日の順に列記しておくことにする³⁹⁾。なお、レーゲンスブルク以外の場所（たとえばフリンゲン）からレーゲンスブルク以外の場所への巡礼は、ここでは省略する。

- A. 最初に、レーゲンスブルクから他へ巡礼に行く事例を二つ挙げておく。4月23日（土）～24日（日）、レーゲンスブルクのザンクト＝エメラム小教区⁴⁰⁾では、著名な聖ヴォルフガング巡礼地であるヴォルフガング湖畔ザンクト＝ヴォルフガングへ巡礼に出かけている（この巡礼地についてはⅡ章の最後で触れた）（図2参照）。
- B. 次はレーゲンスブルク市内の小教区ではなく、レーゲンスブルク司教区としての巡礼である。6月13日（月）、教会世話係（Mesner）司教区連盟（Diözesanverband）が、デッゲンドルフ（Deggenndorf）近傍オーバーヴィンクリング（Oberwinkling）の聖ヴォルフガング教会⁴¹⁾へ司教区巡礼を行なっている（図2参照）。参加者100人以上。午前9時30分、まずプレースル（Prösl）地元小教区司祭の挨拶と、オーバーヴィンクリング＝ザンクト＝ヴォルフガング小教区についての短い説明がある。記念のろうそくを聖別（Weihe）した後、祝祭ミサ（Festgottesdienst）が始まる。司式は、司教区顧問であるラッテンベルク（Rattenberg）⁴²⁾のグルーバー（Gruber）司祭で、他の聖職者も共同司式する。説教では、聖ヴォルフガングを引き合いに出して、教会世話係も神への奉仕に身を捧げねばならないと説かれる。ミサに続いて、ニーダーヴィンクリング（Niederwinkling）の料理店で総会が行なわれ、新役員の選挙がある。大体のところ、旧役員が3年任期の新役員⁴³⁾に再選されている⁴⁴⁾。
- C. 以下はすべてレーゲンスブルクへの巡礼の事例である。3月12日（土）～13日（日）、オーストリアのヴォルフガング湖畔ザンクト＝ヴォルフガング小教区から、レーゲンスブルクへ巡礼に来ている。聖エメラム教会へ聖ヴォルフガングに捧げるろうそくを献納している⁴⁵⁾。13日（日）には、大聖堂でミュラー司教司式のもと、司教ミサ（Pontifikalgottesdienst）を行なっている⁴⁶⁾。
- D. 4月30日（土）、オーストリアのオーバーエースターライヒ（Oberösterreich）州タウフキルヘン（Taufkirchen）⁴⁷⁾小教区から巡礼に来ている。
- E. 同じく4月30日（土）、300人以上のドイツ青少年団（D J K）⁴⁸⁾司教区連盟（Diözesanverband）メンバーが、聖エメラム教会に巡礼に来ている。D J Kはカトリック系のスポーツ団体であり、運動選手巡礼（Sportlerwallfahrt）と称している。ミサ（Gottesdienst）には、各クラブの旗（Banner）も代表として掲げられている。ミサの司式は、司教区顧問（Diözesanbeirat）であるヴァイデンのヘルマン（Herrmann）聖アウグスチノ会（O S A）修道司祭とローテンシュタット（Rothenstadt）⁴⁹⁾のリープル（Liebl）小教区司祭である。修道司祭の説教では、聖ヴォルフガングの生涯と活動について述べられ、我々も彼のように信仰の証人でなければならないと説かれる。ミサに続いて、D J Kレーゲンスブルク＝カイルベルク（Keilberg）支部

- のクラブハウス (Vereinsheim) に場所を移し、集会を持っている⁵⁰⁾。
- F. 6月18日 (土), アウグスブルク近郊マイティンゲン (Meitingen) - ザンクト=ヴォルフガング小教区から、レーゲンスブルクへ巡礼に来ている。
- G. 7月7日 (木), メミンゲン (Memmingen) 近郊エロルツハイム (Erolzheim) - ザンクト=マルティヌス (St. Martinus) 小教区から、レーゲンスブルクへ巡礼に来ている。聖ヴォルフガングのろうそくを、聖エメラム教会へ献納している⁵¹⁾。
- H. 7月9日 (土), レーゲンスブルク司教区の婦人母親会 (Frauen- und Mütterverein) (複数) が、聖エメラム教会へ巡礼に集まっている。午前10時から、ゲーゲンフルトナー (Gegenfurtner) 司教総代理 (Generalvikar) 司式の祝祭ミサ (Festgottesdienst) があり、続いて場所をかえて集会を開いている。昼食の後、市内の聖アントーン (St. Anton) 教会で午後の礼拝 (Andacht) がある。1994年は、婦人母親会の創設125周年にあたる⁵²⁾。
- I. 7月23日 (土), ハノーファー (Hannover) から特別列車でレーゲンスブルクへ巡礼に来ている。
- J. 10月15日 (土), アウグスブルクのザンクト=ウルリッヒ=アフラ (St. Ulrich und Afra) 小教区から、300人以上の巡礼団が、ブラスバンド・聖歌隊同伴で来ている (J 1)。この小教区はレーゲンスブルクのミュラー司教の出身地である。これと同時に、アルゴイ (Allgäu) 地方フュッセン (Füssen) 北方のレンゲンヴァング (Lengenwang) 小教区 (J 2) とヴェルツブルク南西のタウバービショッフスハイム=ディットヴァー (Tauberbischofsheim-Dittwar) 小教区 (J 3) から、それにニュールンベルク (Nürnberg) のコルピングファミリー (Kolpingfamilie)⁵³⁾ (J 4) からも巡礼者が訪れている。レンゲンヴァング小教区には、聖ヴォルフガング教会があり、聖ヴォルフガングを守護聖人にしている⁵⁴⁾。午前10時より聖エメラム教会で司教ミサ (Pontifikalgottesdienst) があり、ミュラー司教のほか、ウルリッヒザンクト=エメラム小教区司祭、各小教区司祭などが共同司式する。司教はその説教の中で、聖ヴォルフガング (レーゲンスブルク司教区の守護聖人) と彼の父のような友人聖ウルリッヒ (アウグスブルク司教区の守護聖人) をとりあげ、二人がともに神の中に共通の友を持つという意識で結ばれていたと説いている⁵⁵⁾。
- K. 10月22日 (土)~23日 (日), オーストリアのリンツ司教区から40~50人の巡礼団が来ている。リンツ司教区は、聖ヴォルフガングの没地プッピングのあるところであり、事例Aの巡礼地ヴォルフガング湖畔ザンクト=ヴォルフガングもリンツ司教区に属する。巡礼団の一行は、22日 (土) 午前9時~9時45分、聖エメラム教会のヴォルフガング地下聖堂で、ミサ (Gottesdienst) を行なう。司式はミュラー司教の他、アーマー (Ahammer) リンツ司教区司教総代理などである。中央祭壇前で司教とともに記念写真を撮り、引率者が聖エメラム教会について説明する。教会を出た後は、ガイドによるレーゲンスブルク市内見物になる。翌23日 (日) は、午前9時から大聖堂で司教ミサ (Pontifikalmesse) がある。司式はシュラームル (Schraml) 補佐司教

である⁵⁶⁾。

L. 月日は不明だが、ミュンヘン東方ドルフェン (Dorfen) 近傍のザンクト=ヴォルフガング小教区からも巡礼に来て、聖エメラム教会へ聖ヴォルフガングのろうそくを献納している⁵⁷⁾。

2. 没後千年祭の諸行事にみる聖ヴォルフガング巡礼の特徴

以上列挙してきた巡礼は、もちろん聖ヴォルフガング巡礼のすべてではなく、個人巡礼についても不明のままだが、1節に挙げた巡礼の諸事例から比較検討可能なデータをとりだして表にしてみると、表2のようになる(次のIV章で述べる青少年巡礼のデータも入れてある)。比較項目は、巡礼曜日、巡礼団の出身州(司教区)、巡礼団の空間的単位(主催者)、巡礼地での行事の四つである。この表を見ることにより、とりあえず次のような聖ヴォルフガング巡礼の特徴が指摘できよう。

1) 巡礼曜日は、祝祭週間中のものを除き、ほとんど土・日曜日に集中している(16例中13例)。

特に日帰りと思われる場合は、圧倒的に土曜日が多い。なぜ日曜日のみの日帰り巡礼が少ないのか、今のところ説明できない。

2) レーゲンスブルク(聖エメラム教会)への巡礼団の出身州は、ドイツ国内ではバイエルン州が大半を占め(14例中11例)、さらにバイエルン州の西に隣接するバーデン=ヴュルテンベルク(Baden-Württemberg)州が2例ある。国外からはオーストリアの3例で、やはりいずれもバイエルン州と隣り合うオーバーエースターライヒ州である。したがって、ドイツ南部およびオーストリアの一部を、巡礼行動から把握される(レーゲンスブルクの)聖ヴォルフガングの信仰圏と見ることができよう。なお司教区単位では、レーゲンスブルク司教区が多いものの、巡礼団はそれに限られていない。

3) 巡礼団の空間的単位は、ほとんどが司教区と小教区のいずれかであり、これら二つを巡礼団の主要な空間的単位と呼ぶことができる。そして司教区を単位とする場合は、司教区自身が司教区民全体に呼びかけて組織するよりは、(カトリック関係)各種団体の司教区連盟が主催して巡礼団を組織することが多い。事例に登場したカトリック系団体を再度列挙すると、KDFB(婦人団体)、カリタス会(福祉団体)、KAB(労働者団体)、教会世話係団体、DJK(スポーツ団体)、婦人母親会であり、事例J4も、司教区単位ではないが、コルピングファミリーというカトリック系団体の支部によって組織されたものである。また、小教区を単位とする場合は、聖ヴォルフガング教会を持ち、聖ヴォルフガングを守護聖人にしている事例がしばしば見られる。具体的には、事例C・F・J2・Lがそれに該当する。

4) 巡礼団の空間的単位を出身司教区との関係で見ると、レーゲンスブルクへ小教区単位で巡礼に来る事例は、すべてレーゲンスブルク司教区の外からであり、レーゲンスブルク司教区内部からの巡礼者は、すべて司教区単位の巡礼団の一員としてレーゲンスブルクに来ている。これは、1994年が聖ヴォルフガングの記念年であり、司教区側が司教区民にレーゲンスブルクへの巡礼を促したという事情も影響していると考えられる。しかしながら、レーゲンスブルク

表2 没後千年祭の諸行事にみる聖ヴォルフガング巡礼の特徴

Table 2. Characteristics of pilgrimage for Saint Wolfgang in 1994: mainly focusing on cases to Regensburg

事例 case	巡礼曜日 ¹⁾ pilgrim day of the week	巡礼団の出身州(司教区) ²⁾ land (diocese) of origin of the pilgrim group	巡礼団の空間的単位(主催者) spatial unit of the pilgrim group (promoter)	巡礼地での行事 events at the destination
①	木～日 Thu. - Sun.	※	主にR司教区(バイエルン巡礼局) R. Diocese (pilgrim office)	ミサ・講演・見学 Mass, lecture, visit to places concerning another saint
②-a	日 Sun.	バイエルン(R) Bayern (Regensburg)	R司教区(カトリック系団体) R. Diocese (Catholic organization)	集会・行列・ミサ meeting, procession, Mass
②-b	木 Thu.	バイエルン(R) Bayern (Regensburg)	R司教区(カトリック系団体) R. Diocese (Catholic organization)	ミサ Mass
②-c	金 Fri.	バイエルン(R) Bayern (Regensburg)	R司教区(カトリック系団体) R. Diocese (Catholic organization)	ミサ・懇親会 Mass, social
②-d	土 Sat.	オーストリア(OÖ) Österreich (OÖ)	小教区 parish	ミサ・R司教訪問 Mass, visit to the Bishop of R.
③	日 Sun.	※	R司教区(旅行社) R. Diocese (tourist office)	ミサ・行列・礼拝 Mass, procession, service
A	土日 Sat. - Sun.	※	小教区 parish	?
B	月 Mon.	※	R司教区(カトリック系団体) R. Diocese (Catholic organization)	ろうそく献納・ミサ・総会(役員選挙) offering of a candle, Mass, general meeting (election)
C	土日 Sat. - Sun.	オーストリア(OÖ) Österreich (OÖ)	小教区 parish	ろうそく献納・ミサ offering of a candle, Mass
D	土 Sat.	オーストリア(OÖ) Österreich (OÖ)	小教区 parish	?
E	土 Sat.	バイエルン(R) Bayern (Regensburg)	R司教区(カトリック系団体) R. Diocese (Catholic organization)	ミサ・集会 Mass, meeting
F	土 Sat.	バイエルン(A) Bayern (Augsburg)	小教区 parish	?
G	木 Thu.	バーデン=ヴュルテンベルク Baden-Württemberg	?	ろうそく献納 offering of a candle
H	土 Sat.	バイエルン(R) Bayern (Regensburg)	R司教区(カトリック系団体) R. Diocese (Catholic organization)	ミサ・礼拝・集会 Mass, service, meeting
I	土 Sat.	ニーダーザクセン Niedersachsen	?	?
J1	土 Sat.	バイエルン(A) Bayern (Augsburg)	小教区 parish	
J2	土 Sat.	バイエルン(A) Bayern (Augsburg)	小教区 parish	ミサ(J1-J4は同時) Mass (J1 to J4 at the same time)
J3	土 Sat.	バーデン=ヴュルテンベルク Baden-Württemberg	小教区 parish	
J4	土 Sat.	バイエルン(B) Bayern (Bamberg)	都市(カトリック系団体) city (Catholic organization)	
K	土日 Sat. - Sun.	オーストリア(OÖ) Österreich (OÖ)	リンツ司教区 Linz Diocese	ミサ・観光 Mass, sightseeing
L	?	バイエルン(M) Bayern (München-Freising)	小教区 parish	ろうそく献納 offering of a candle
IV	土 Sat.	主にバイエルン(R) Bayern (Regensburg)	主にR司教区(司教青少年局) R. Diocese (Bishop's youth office)	ミサ・祭典・ミュージカル Mass, festival, musical

1) 出発日・帰着日が確認できない事例が多いので、表に掲載した曜日の前後にまたがる可能性もある。

2) レーゲンスブルクへ来る巡礼団の出身州であり、レーゲンスブルクから他所へ巡礼に行くものは※で表示した。バイエルン州以外の場合は司教区を省略した。オーストリアの場合は括弧内に州名を記した。略号は次のとおりである。R=レーゲンスブルク司教区, A=アウグスブルク司教区, B=バンベルク大司教区, M=ミュンヘン・フライジング大司教区, OÖ=オーバーエースターライヒ州。

※: pilgrimage from Regensburg to other pilgrim places

R.: Regensburg

司教区内からの小教区単位の巡礼を否定するには、事例の数が少なすぎよう。

- 5) 巡礼地での行事では、スケジュールのおおまかな概要が資料的に分かる場合、必ずミサが行なわれている。しかし、ミサを行なうにはそれを司式する聖職者が不可欠である。表2の13例のミサでは、7例まで司教が登場するが、これは司教司式のミサが新聞報道などを通じて記録に残りやすいためであって、それ以外には補佐司教・司教総代理などやはり司教区側の聖職者、聖エメラム教会の司祭、カトリック系団体の司教区顧問・司教区指導司祭、それに巡礼団を引率してきたと思われる司祭がミサを司式している。すなわち、巡礼団には聖職者が同伴または引率しており、その人がミサを行なうか、さもなければ巡礼先の聖職者にミサの司式を依頼することになる。また、資料にははっきり現れてこないが、巡礼先の教会で定期的に行なわれるミサに参列することもある。したがって、巡礼集団に必ず聖職者が含まれていなければならないということではない。なお礼拝ならば、聖職者がいなくとも可能である。
- 6) ミサ・礼拝以外の行事では、カトリック系団体の巡礼の場合、集会を同時に開くことが多い。それは、事例②-aのように真剣な討論であったり、事例Bのように役員選挙であったり、事例②-cのように懇親会だったりする。また、事例①や事例Kでは、巡礼観光的要素が顔をのぞかせている。
- 7) 事例②-aの婦人巡礼に、旗を掲げ、祈りの言葉を唱えながら、行列を組んで歩く部分がある(写真4)。また、事例①のアインズイーデルン巡礼でも行列の場面がある(写真2)。プッピング関係の行事でも行列の区間が含まれている。アルトエッティングへの徒歩巡礼では現在でもこうした光景が見られ⁵⁸⁾、これらの行列は徒歩巡礼の面影を残すものとも考えられる。

IV. 巡礼の具体例——祝祭週間中の青少年巡礼

Ⅲ章では聖ヴォルフガング没後千年祭の行事全体を概観して、巡礼の特徴を検討してきたが、本章では巡礼の一例を細かく見ておきたい。以下にとりあげるのは祝祭週間中の青少年巡礼であるが、この巡礼が興味を引く点は、巡礼参加世代が「青少年」であることとともに、徒歩による巡礼であるということである。上述の巡礼の事例では、一部に行列の部分が含まれるものもあったが、すべて徒歩という巡礼はなかった。巡礼本来の移動の形は言うまでもなく徒歩であり、そういう意味からすると、この青少年巡礼を詳細に検討することによって、Ⅲ章では不明瞭だった、出発地から目的地への移動プロセスについて、さらなる知見を得ることが期待される。

青少年巡礼⁵⁹⁾は、司教青少年局(bischöfliches Jugendamt)の主催で、祝祭週間初日の6月25日(土)に行なわれた。モットーは「信仰は途上に(Glaube unterwegs)」である。主な日程を最初に略述しておく、朝レーゲンスブルク周辺の5ヵ所から出発してレーゲンスブルクの聖エメラム教会へ歩いてくるもので、一斉巡礼の形をとっている。聖エメラム教会ではミサがあり、午後は近くで「出会いの祭典」が催される。筆者は、この青少年巡礼に参加する機会を得たので、以

下この巡礼について詳しく報告しておく⁶⁰⁾。

まず出発地点と出発予定時刻を具体的に挙げると、午前6時に出発するのがマッティング (Matting)⁶¹⁾、ノイエグロフスハイム (Neueglofsheim)⁶²⁾、レーゲンドルフ (Regendorf)、午前7時がアードラースベルク (Adlersberg)、午前8時がマリアオルト (Mariaort) である (図3参照)。距離は、最も遠いノイエグロフスハイムで、直線距離にして14kmくらいである。参加者数は全部で600人以上。マッティングからの巡礼者には、チェコ共和国のプラハ・プルゼニ (Plzen, Pilsen) 両司教区からの参加者35名も含まれている。プラハ大司教区は、既述のようにヴォルフガング司教の時代にレーゲンスブルク司教区から分立したところであり、レーゲンスブルク司教区とゆかりの深いところである。約1年前には、そこからさらにプルゼニ司教区が分かれたという。この他に、アンベルク (Amberg)⁶³⁾ の自転車巡礼団⁶⁴⁾ が、その南東近郊のエンズドルフ (Ensdorf) から出発して、レーゲンスブルクに向かっている。聖エメラム教会到着予定時刻は、午前10時30分頃である。

筆者はこのうちマリアオルトから出発する巡礼に参加した。マリアオルトは名前のおりマリア巡礼の教会としても知られており⁶⁵⁾、その巡礼教会が集合地点である。参加者は約30人で、年齢層は、日本で言えば小中高校生くらい。男女ともいる。小さい子供の付き添いで来ている母親も交じっている。リーダーは、平服ではあるが若い聖職者が務めている。ギターを持った青年が歌の伴奏役である。

巡礼は、午前8時10分、巡礼教会内での行事から始まった。まず今回の聖ヴォルフガング巡礼について聖職者の話があり、地元の司祭からも巡礼地マリアオルトの説明がある。これに引き続いて礼拝が行なわれる。礼拝は、ギターの伴奏で歌を1曲歌い、

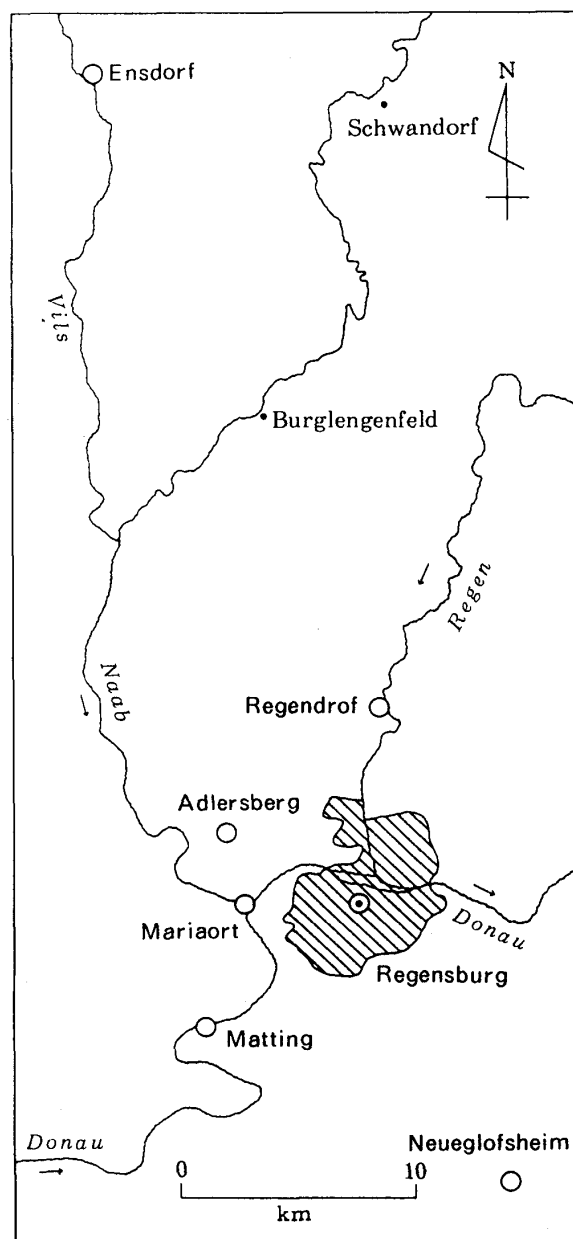


図3 青少年巡礼の出発地点

○印で示したもの。エンズドルフは自転車巡礼で、あとはみな徒歩巡礼。レーゲンスブルク市街の丸印は聖エメラム教会を表わす。

Fig. 3. The starting points of the youth pilgrimage to Regensburg. Shown as ○ sign. From Ensdorf bicycle pilgrimage; from the other five points walking pilgrimage. The circle in the Regensburg city area means the St. Emmeram Church.

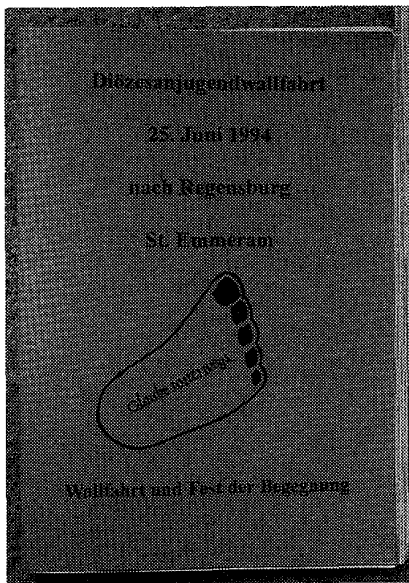


写真7 青少年巡礼のパフレット

Photo 7. A pamphlet of youth pilgrimage

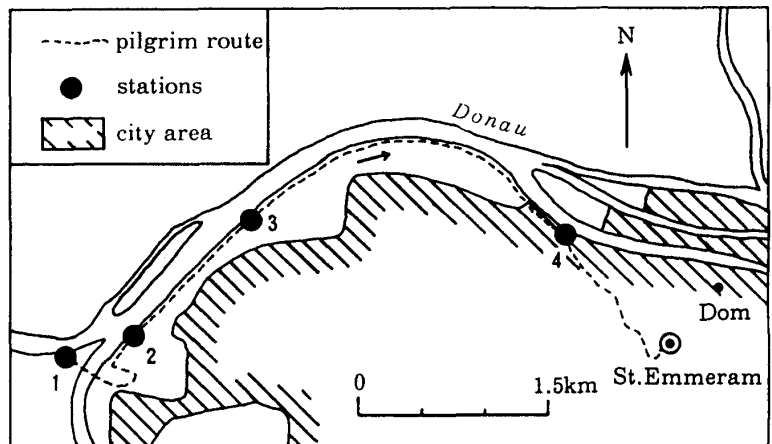


図4 マリアオルトから聖エメラム教会への巡礼ルートとステーション

数字はステーションの順序を示す。ドナウ川より北の市街地は省略した。

Fig. 4. The pilgrim route and stations from Mariaort to the St. Emmeram Church.

The numbers show the order of the stations. The city area to the north of the Donau (Danu-be) is not represented.

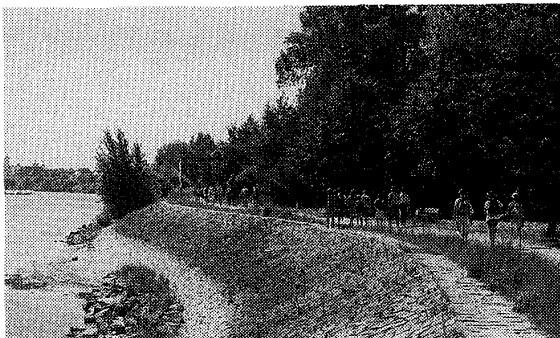


写真8 青少年巡礼

ドナウ川右岸を歩く(第3, 第4ステーションの間)
Photo 8. Youth pilgrimage going along the Donau:
between the third and fourth station.



写真9 青少年巡礼に伴走する救援車

Photo 9. A rescue car accompanying the youth pilgrimage.

次に祈りの言葉を唱え、そしてまた歌という3部構成になっている。参加者には、あらかじめ歌や祈りの印刷されたパンフレット(写真7)が配布されており、それを見ながらの礼拝である。

8時30分にマリアオルトを出発。聖エメラム教会への最短ルートではなく、市街地を避けるように、ドナウ川沿いの車の通らないのどかな道を選んで、ハイキングのような感じで歩く(図4, 写真8)。マルテザー救援サービス(Malteser-Hilfsdienst)⁶⁶⁾の車が、ずっと近くを伴走する(写真9)。途中9時, 9時35分, 10時20分, 3ヵ所のステーション(停止地点)(Station)で止まり, それぞれ10分くらいずつ礼拝を行なう(写真10, 11, 12)。ほぼ30分おきにステーションが

ある勘定になる。礼拝の構成は最初と同じである。ドナウ川を離れて市街地に入ると、自動車の喧嘩が耳に入ってくるが、それを避けるように市壁跡の遊歩道を主に通る。横断歩道では、警察官がこの巡礼のために交通整理にあっている。10時50分ようやく聖エメラム教会に到着する（写真13）。歩いた距離は正味6 kmくらいである。

ここで、ステーションについてもう少し述べておくと、ステーションはただの川べりだったり、木の下だったり、十字架やチャペルがあるような固定した聖地ではない。パンフレットには四つのステーションに分けて歌と祈りが記されているが、各ステーションに次のテーマが付されている。すなわち、第1ステーションは「道を行く」、第2ステーションは「橋を架ける」、第3ステーションは「生きている水」、第4ステーションは「生長する木々」である。第1ステーションは出発地点の教会である。第2ステーションのテーマは、出発直後ドナウ川に架かる橋を渡るところから考えられたものであろうが、実際に礼拝を行なったのは橋から少し離れた下流の川べりであった（写真10）⁶⁷⁾。第3ステーションは水の見える場所で礼拝すべきところだが、日差しがきついため、日陰を求めて木の下にしたとのことであった（写真11）。第4ステーションは、テーマどおり木の回りであった（写真12）。こうして見てみると、この巡礼におけるステーションの空間的位置は、流動性を持ったものであるということが分かる。

なお、パンフレットによってマリアオルト以外の巡礼路の状況を見ておくと、礼拝の構成、歌・祈りの内容、ステーションの数などさまざまであり、テキスト朗読が入るコースもある。ステーションの数のみ以下に挙げておくと、マッピングが3、ノイエグロフスハイムが4、アードラーズベルクが2（出発地点を含めれば3）であり、レーゲンドルフからの巡礼は、ステーションを明記していない。途中の地名や地物など巡礼路をうかがわせる記述は、マリアオルトの場合を含めてまったくない。ということは、どこを通り、どこをステーションとして礼拝をするかは、ステーションの数も含めて、この巡礼にとってあまり意味を持っていないということになる。それには、この巡礼が伝統を持ったものではないということも関係していると考えられる。

さて、空間的移動としての巡礼は、聖エメラム教会に到着して終了だが、実はこれからまたさまざまな行事が催される。すなわち、午前11時（予定時刻、実際は11時10分）から聖エメラム教会で青少年ミサ（Jugendgottesdienst）が行なわれる。筆頭ミサ司式司祭はアマン（Aman）青少年担当主任司祭（Jugendpfarrer）。プルゼニのカプラネク（Kaplánek）サレジオ会（SDB）修道司祭も共同司式し、プルゼニ司教区司教の挨拶の言葉を代読している。祈りの言葉にもチェコ語が時々交じる。通常の聖歌隊に代わって、ドラムも入った6人組のバンドが「聖歌」を演奏し、「平和の網」と称して、各人持参のテープを結び合わせ一本につなげるなど（写真14）、子供向けに考えられたミサである。

ミサは12時30分過ぎに終了し、この後近くの司教区センター（Diözesanzentrum）の屋外で昼食が提供される（屋台が並ぶ）。午後1時30分からは、こことこれに隣接するオーバーミュンスター広場（Obermünsterplatz）、さらに青少年ホーム（Jugendheim）も使って、参加した子供

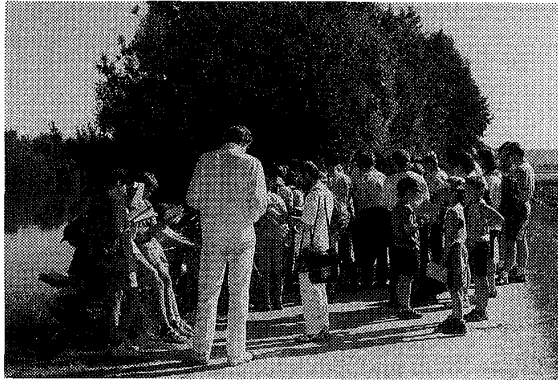


写真10 第2ステーションでの礼拝
Photo 10. The service in the second station.

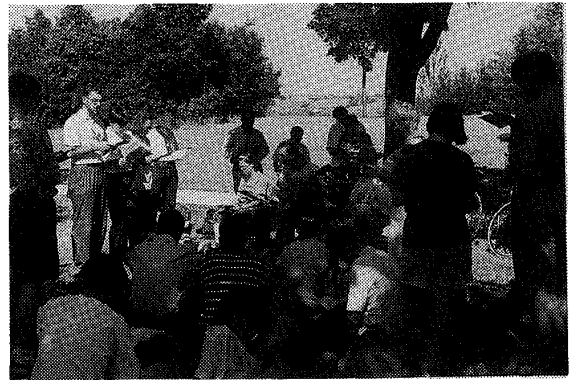


写真11 第3ステーションでの礼拝
Photo 11. The service in the third station.



写真12 第4ステーションでの礼拝
Photo 12. The service in the fourth station.

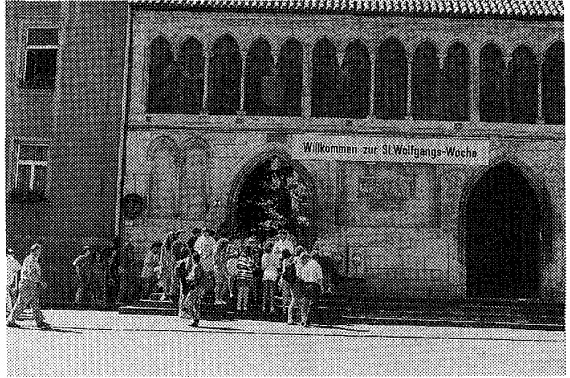


写真13 聖エメラム教会に到着した青少年巡礼者
Photo 13. Youth pilgrims arriving at the St. Emmeram Church.



写真14 聖エメラム教会での青少年ミサの一場面
Photo 14. A scene in the youth service in the St. Emmeram Church.



写真15 出会いの祭典
司教区センターの中庭にて
Photo 15. The festival of encounter in the courtyard of the Diocesan Center.

たちのために「出会いの祭典 (Fest der Begegnung)」が催される。ダンス、演劇、音楽などのほか、さまざまな(団体の)インフォメーションコーナーも設けられている(写真15)。食事・催し物には、カトリック関係のさまざまな団体が協力している⁶⁸⁾。

インフォメーションコーナーの中に、なぜ聖ヴォルフガング祭に来たのかを自由にカードに書いて、ボードに貼るコーナーがあった(写真16)。その内容を紹介しますと、「楽しいから」、「生きるのが楽しいから」、「たくさんの気のいい少年少女に会いたいから」、「こんなにたくさんの若者といっしょにいるのはすばらしいことだから」、「小教区の人たちと遠出するのは楽しいから」、「楽しいから、そして多くのすばらしいことを経験したいから」、「遠出をするのは楽しいから」などなどで、子供たちは遠出をして多くの仲間と出会うのが楽しみで来ている。聖ヴォルフガングへの信仰心から参加している訳ではなさそうである。

祭典の主な行事は午後5時には終わるが、午後6時からの聖エメラム教会での司教ミサ(これは青少年のみを対象にしたものではない)をはさんで、午後8時からさらにミュージカルが上演される。場所はレーゲンスブルク市内の聖ヴォルフガング教会で、演題は「イエスー我々のひとり」である。

以上のように、この青少年巡礼は、聖ヴォルフガング祝祭週間の一環として子供を動員するために企画されたものであり、徒歩巡礼とはいえども、アルトエッチングなどへの伝統的な巡礼とは趣を異にしている。しかし、既に上に述べたように、市街地を避けた巡礼ルートをとること、途中礼拝を行なうステーションが存在すること、しかしながらおそらくは伝統の欠如のため、それが空間的に固定されていないことなど、現代の(徒歩)巡礼を(地理学的に)考えるうえで、興味深い事実が明らかになったのではないかと考える。

V. おわりに

本稿では、聖ヴォルフガング巡礼を例として、現代のドイツ南部におけるカトリック巡礼について、若干の記述と分析を試みた。すなわち、Ⅲ章では聖ヴォルフガング没後千年祭の諸行事の中から巡礼をピックアップし、そこに見られる巡礼の特徴をいくつか指摘した。Ⅳ章では、徒歩巡礼である青少年巡礼について検討し、移動のプロセスに関する知見を得た。これらの内容については各章末で要約したので、ここであらためて繰り返さない。

本稿はヨーロッパの巡礼(地)に関する筆者の研究のほんの手始めであり、残された課題は多い。

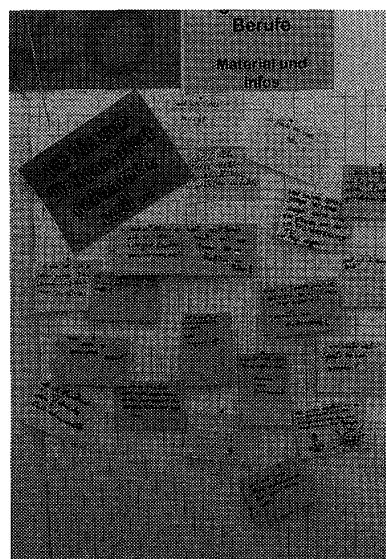


写真16 聖ヴォルフガング祭参加の理由を書いた紙片

Photo 16. Pieces of paper showing reasons why one has come to the Wolfgang Festival.

たとえば、本稿でとりあげた巡礼の多くは聖ヴォルフガング没後千年祭に合わせて企画されたものと思われ、毎年定期的に行なわれる巡礼にしばって考察すれば、上述したような巡礼の特徴とは違う結果が出てくることも予想される。また聖ヴォルフガング巡礼という表現を使ったが、「聖ヴォルフガング」巡礼にしかない特徴が存在するのかどうかははっきりしなかった。これについては、マリアをはじめ他の聖人への巡礼とも比較して考えていく必要があるだろう。

いずれにせよ、ヨーロッパの巡礼(地)に関して(地理学的に)研究されるべき事柄はまだ多い。研究史のレビュー^{6,9)}とも合わせ、今後さらに検討を加えていきたい。

[付記]

脱稿後、ヴォルフガング年を回顧する書籍^{7,9)}が出版された。1994年12月5日に本が披露され、ミュラー司教へ初刷り本が献呈されている^{7,1)}。ヴォルフガング年の諸行事の全容は、本書を参照されたい。

注

- 1) ①河野眞「西ヨーロッパの巡礼慣習にたいする基本的視点について—特に日本でおこなわれている通念の修正のために(1)」, 愛知大学文学論叢102, 1993, 109-128頁, ②河野眞「同(2)」, 愛知大学文学論叢104, 1993, 159-184頁。
- 2) 前掲注1) ①127頁。なお河野は, ①125-126頁で, 次のような筆者の拙文を引用している。「近年…ヨーロッパの巡礼に関する出版物も, 我が国でいくつか見られるようになってきた。まだ向こうの研究の翻訳・紹介にとどまっているものが多いとはいえ, コンポステラやルルドへの巡礼について, 日本語で読めるようになった……そのような中であって, ……パレスチナへの巡礼については, ……まだまだ日本に知られていない部分が多い……」(点線部分は筆者省略)。そして, 筆者を「大巡礼地への訪れをもってヨーロッパの巡礼慣習とみなす傾向から出ていない」と批判している。しかし, 上掲の拙文はパレスチナ巡礼を扱った本の書評のイントロダクションであり, 「紹介が遅れている大巡礼地が他にもある」(河野の表現)という問題意識は, 書評として至極妥当なものである。ヨーロッパの大巡礼地の名前だけを挙げ, 在地巡礼について触れていないという理由で上述のような批判をするならば, それは拙文のコンテクストを無視した筋違いの批判というべきである。念のために拙文を補足すれば, 「ヨーロッパの巡礼に関する出版物」, 「向こうの研究の翻訳・紹介」との字句は, 河野の一連の論考も念頭においての表現であったことを付記しておく。拙文の出典は次のとおり。小田匡保「(書評)John Wilkinson, Joyce Hill and W. F. Ryan eds., *Jerusalem Pilgrimage 1099-1185*」, 史林73-5, 1990, 790-796頁。問題の箇所は790頁。
- 3) Stadt Regensburg, Presse- und Informationsstelle (Hrsg.), *Stadt Regensburg : Informationen in Zahlen und Stichworten 1994*.
- 4) 聖ヴォルフガングについては多くの著作があるが, ここでは主に次の文献を参照した。①Chrobak, Werner, *Der heilige Bischof Wolfgang, Geschichte - Legende - Verehrung (Das Bistum Regensburg III)*, Kehl: Echo-Buchverlag, 1993, 48S. なお日本語文献として, ②河野眞「ヴォルフガング聖人伝—事蹟編」, 愛知大学文学論叢70, 1982, 187-252頁がある。
- 5) レーゲンスブルク司教区の守護聖人には, 他に聖エメラム(Emmeram)と聖エアハルト(Erhard)がいるが, 聖ヴォルフガングが主たる守護聖人である。Leidl, August (Hrsg.), *Bistumspatrone in Deutschland*, München und Zürich: Schnell & Steiner, 1984, S.158-166.
- 6) ザンクト=ヴォルフガングに関する日本語文献に次のものがある。①河野眞「ヴォルフガング聖人伝—その民俗と伝承」, 愛知大学文学論叢73, 1983, 195-250頁, ②河野眞「巡礼地ザンクト・ヴォルフガング発達小史—発端から中世末期まで」, 愛知大学文学論叢93, 1990, 172-206頁。

- 7) *Regensburger Bistumsblatt*. 以下R.B.と略記する。
- 8) *Mittelbayerische Zeitung*. 以下M.Z.と略記する。「中部バイエルン新聞」のローカル面は配達区域によって内容が異なるが、本稿で使用するのはすべてレーゲンスブルク市内配布版である。
- 9) 主な資料は次のとおり。①R.B. 5. Juni 1994 (Nr.22 / 63.Jg.). ②R.B. 12. Juni 1994 (Nr.23 / 63.Jg.). ③M.Z. 1/2. Juni 1994. ④*Pilger- und Studienreisen '94*, München: Bayerisches Pilgerbüro, S.44. ④はバイエルン巡礼局の巡礼参加者募集パンフレットである。
- 10) *Baedekers Allianz Reiseführer: Schweiz - 5. Aufl.*, Ostfildern bei Stuttgart: Verlag Karl Baedeker, 1992, S.233-235.
- 11) ザクセルンはルツェルンの南約20km, ザルナー湖 (Sarner See) の湖岸に位置する村である。フリューエリもこのすぐ近くの小村である。前掲注10) S.464-465.
- 12) 修道士クラウスは通称で、正確にはフリューエの聖ニコラウス (hl. Nikolaus von der Flüe) という。1417年フリューエリに生まれ、結婚して10人の子息をもうけたが、50歳で妻子のもとを去り、19年間近くのランフト (Ranft) で隠遁生活を送った。政界で活動していた彼のもとには、隠遁後も多くの人々が助言を求めて訪ねてきた。1481年の州代表者会議では、彼の助言によりスイスは分裂の危機を免れた。1487年没、1669年崇敬認可、1947年列聖。①Wimmer, O. und H. Melzer, bearbeitet und ergänzt von J. Gelmi, *Lexikon der Namen und Heiligen - 6. verb. u. erg. Aufl.*, Innsbruck; Wien: Tyrolia Verlag, 1988, S. 604 -605. ②Benedictine Monks of St. Augustine's Abbey, Ramsgate (ed.), *The book of Saints - sixth edition*, London: A & C Black, 1989, p.414.
- 13) 前掲注9) ④。
- 14) レーゲンスブルク北方約70kmに位置し、レーゲンスブルク司教区に所属する。
- 15) 「Gottesdienst」は「礼拝」の意味だが、聖体拝領があると思われる場合は「ミサ」と訳した。
- 16) 聖霊降臨の日の後の最初の日曜日をいう。移動祭日で毎年日が変わる。
- 17) ヴォルフガング週間 (Wolfgangswochen) とも称している。
- 18) 資料は次のとおり。①*Amtsblatt für die Diözese Regensburg* Nr.7, 10. Juni 1994. ②R.B. 26. Juni 1994 (Nr.25/63.Jg.). ③Seelsorgeamt Regensburg, *Wolfgangsjahr 1994: Tausendjahrfeier des Todes des hl. Wolfgang*. ①はレーゲンスブルク司教区事務局編集の公的な司教区報, ③はパンフレットで、三つとも同一の内容である。
- 19) バイエルン州には、レーゲンスブルク司教区以外にパッサウ (Passau) 司教区・ミュンヘン=フライジング (München und Freising) 大司教区・アウグスブルク司教区・アイヒシュテット (Eichstätt) 司教区・バンベルク (Bamberg) 大司教区・ヴェルツブルク司教区の六つがある。
- 20) たとえば、ズルツバッハ=ローゼンベルク市 (Sulzbach-Rosenberg) (レーゲンスブルク北北西約60km) のザンクト=マリエン=ズルツバッハ (St. Marien-Sulzbach) 小教区 (Pfarrgemeinde) は、7月3日 (日) の祝祭ミサにバスで巡礼に出かけている。その行程を紹介すると、午前7時45分にズルツバッハを出発し、10時からのミサに参列。午後1時30分レーゲンスブルクをバスで出発し、ドナウ川上流のケールハイム (Kelheim) へ。ケールハイムからは、午後2時30分に貸切の汽船に乗り、バイルングリース (Beilngries) までマイン=ドナウ運河 (Main-Donau-Kanal) を遡航する4時間半の船旅である。午後7時バスで帰路についている。ちなみに参加費は、大人ひとり30マルク (約1900円) である。以上の記述は、次の小教区報による。Katholische Pfarrgemeinde St. Marien - Sulzbach, *Pfarrbrief* vom 19. 06. 94 bis 26. 06. 94.
- 21) 主な資料は次のとおり。①R.B. 12. Juni 1994 (Nr.23 / 63.Jg.). ②R.B. 10. Juli 1994 (Nr.27 / 63.Jg.). ③M.Z. 27. Juni 1994.
- 22) K D F B の正式名称は、Katholischer Deutscher Frauenbundである。ドイツの代表的なカトリック婦人団体のひとつで、会員数約25万人。本部はケルンにある。なおドイツ最大のカトリック婦人団体は、会員数約100万人のドイツカトリック婦人共同体である。*Brockhaus - Enzyklopädie: Bd.11 in 24 Bd. - 19. völlig neubearb. Aufl.*, Mannheim: Brockhaus, 1990, S.546.

- 23) 表1にも記してあるように、レーゲンスブルク地区の婦人は、6月29日(水)夜にまた聖エメラム教会でミサ(Eucharistiefeyer)を行なっている。司式は、KDFB顧問のエンゲルマイヤー大聖堂助任司祭他である。
- 24) 主な資料は次のとおり。R.B. 10. Juli 1994 (Nr.27 / 63.Jg.).
- 25) カリタス会は、カトリック教会最大の社会福祉事業団である。国際カリタス会はローマに本部があり、そのもとにドイツカリタス会(Deutsche Caritasverband e. V.)がある。ドイツカリタス会は1897年に創設され、本部はフライブルク(Freiburg im Breisgau)に位置する。施設数2万ヵ所以上、専業従事者数約19万人を数える。①Haensch, G., A. Lallemand und A. Yaiche, *Kleines Deutschland-Lexikon: Wissenswertes über Land und Leute (Beck'sche Reihe 855: Länder)*, München: C. H. Beck, 1994, S.35. ②Brockhäus - *Enzyklopädie: Bd.5*, 1988, S.390.
- 26) 主な資料は次のとおり。①R.B. 10. Juli 1994 (Nr.27 / 63.Jg.). ②M.Z. 30. Juni 1994. ③M.Z. 1. Juli 1994. ④Katholische Arbeitnehmer-Zeitung Oktober 1994. ④はKABの月刊機関紙である。
- 27) KABの正式名称は、Katholische Arbeitnehmer-Bewegungである。会員数約32万人(1989年現在)で、労働組合以外ではドイツ最大の労働者組織である。本部はケルンにある。もともとの起源は、1860年に創設されたキリスト教社会協会で、文化闘争の後カトリック労働者協会として再結成され、第二次大戦中の弾圧を経て、戦後また新たに組織され直した。現在の名称になったのは1968年からである。Brockhaus - *Enzyklopädie: Bd.11*, 1990, S.543.
- 28) KABのアンベルク=ズルツバッハ(Amberg-Sulzbach)郡連盟(Kreisverband)からは、バスが1台出ている。ズルツバッハを午後5時頃に出発である。前掲注20)。
- 29) 主な資料は次のとおり。①R.B. 10. Juli 1994 (Nr.27 / 63.Jg.). ②M.Z. 27. Juni 1994. ③Presse-dienst Regensburg (以下P.R.と略記) Nr.8 (vom 22. 06. 1994), Bischöfliche Pressestelle. ③は司教区事務局編集の広報である。
- 30) 主な資料は次のとおり。①R.B. 18. September 1994 (Nr.37 / 63.Jg.). ②R.B. 9. Oktober 1994 (Nr.40 / 63.Jg.). ③M.Z. 13. September 1994. ④M.Z. 14. September 1994. ⑤M.Z. 27. September 1994. ⑥Amtsblatt für die Diözese Regensburg Nr.10, 8. September 1994. 聖ヴォルフガング教会関係の行事は、次のパッサウ司教区の機関紙が詳しい。⑦Passauer Bistumsblatt (以下P.B.と略記) 28. August 1994 (Nr.35 / 59.Jg.). ⑧P.B. 25. September 1994 (Nr.39 / 59. Jg.). ⑨P.B. 2. Oktober 1994 (Nr.40 / 59.Jg.).
- 31) プッピングの北西約30km, ドナウ川の上流に位置する。
- 32) パッサウの南西20km強のところりに位置し、パッサウ司教区に所属する。
- 33) Hansen, Susanne (Hrsg.), *Die deutschen Wallfahrtsorte: Ein Kunst- und Kulturführer zu über 1000 Gnadenstätten - 2. Aufl.*, Augsburg: Pattloch Verlag, 1991, S.808-809.
- 34) 正確には彼の生誕地の地名を入れて、パーツハム(Parzham)の聖修道士コンラートと呼ぶ。彼は、有名な巡礼地アルトエッティング(Altötting)で受付係として一生を終えたカプチン会修道士であるが、彼に対する信仰は篤く、1934年に列聖されている。1994年はコンラートの没後100年、列聖60年にあたり、アルトエッティング(パッサウ司教区に属する)ではさまざまな記念行事が催されている。なお、コンラートに関する日本語文献に次のものがある。坂井洲二『ドイツ民俗紀行』, 法政大学出版局, 1982, 286-291頁。
- 35) たとえば、レーゲンスブルク司教区中央図書館(Bischöfliche Zentralbibliothek)では、6月17日から9月16日まで「聖ヴォルフガングの時代の典礼および小工芸品にみる聖ヴォルフガング」と題した展示を行ない、展示図録も出版されている。*Liturgie zur Zeit des Hl. Wolfgang: der Hl. Wolfgang in der Kleinkunst (Bischöfliches Zentralarchiv und Bischöfliche Zentralbibliothek Regensburg, Kataloge und Schriften; Bd.10)*, Regensburg: Schnell und Steiner, 1994, 210S.
- 36) 1節②に述べたミサの生中継の他、たとえば10月29日と10月31日には、バイエルンテレビとORF 2で、ORF制作の「聖ヴォルフガング1000年の足跡」と題した取材番組を放映している。①R.B. 23.

- Oktober 1994 (Nr.42 / 63.Jg.). ②M.Z. 29/30. Oktober 1994.
- 37) 10月13日から聖ヴォルフガングの記念切手が発売されている。発売前日の10月12日には、午後2時から聖エメラム教会内で、ベーチュ (Bötsch) 連邦郵政大臣が記念切手の紹介をし、ミュラー司教や地元政界代表者に記念切手を贈呈している。①R.B. 23. Oktober 1994 (Nr.42 / 63.Jg.). ②M.Z. 8/9. Oktober 1994. ③M.Z. 13. Oktober 1994.
- 38) ヴォルフガング年(1994年)の準備の意味もあって、すでに前年の1993年から司教区による出版活動が始まっており、前掲注4) ①もそのひとつである。東バイエルン観光連盟 (Fremdenverkehrsband Ostbayern)でも、レーゲンスブルク司教区との協力のもとに、東バイエルン・ボヘミア(チェコ)・オーストリア各地の聖ヴォルフガング教会を紹介したパンフレットを作成している。①Fremdenverkehrsband Ostbayern (Hrsg.), *St. Wolfgang in Ostbayern, Böhmen und Österreich*, 1994, 48S. この報道記事は、②R.B. 8. Mai 1994 (Nr.18 / 63.Jg.). またオーストリアのリンツ司教区事務局では、1975年に出版され長らく品切れになっていた聖ヴォルフガングの本を再版している。③Zinnhobler, Rudolf, *Der Heilige Wolfgang: Leben, Legende, Kult - 2. Aufl.*, Linz: Bischöfliches Ordinariat, 1993, 80S. 聖ヴォルフガング関係の出版物については、次の文献が詳しい。④Chrobak, Werner, *Literatur über den hl. Wolfgang - ein Überblick*, 前掲注35) S.43-53所収。
- 39) 資料は主に前掲注18)による。ただし、事例B・G・J・K・Lは、前掲注18)に記載されていない。
- 40) 聖エメラム教会を中心とする、レーゲンスブルク旧市街地西部の都市小教区である。
- 41) レーゲンスブルクの東南東約50kmに位置する。レーゲンスブルク司教区内である。前掲注33)などの巡礼地案内書には記載されておらず、いわゆる巡礼教会ではないようである。
- 42) カム (Cham) の南南東約15km, レーゲンスブルクからは東北東約50kmに位置する。
- 43) 教会世話係司教区連盟の役職は次のとおり。理事 (Vorstand) 1人, 第1理事代理1人 (司教区北部担当), 第2理事代理1人 (司教区南部担当), 地域 (Region) 代表5人——レーゲンスブルク・アンベルク (Amberg)・カム・シュトラウビング (Straubing)・マインブルク (Mainburg) の5地域, 会計1人, 書記1人である。
- 44) 資料は次のとおり。①R.B. 5. Juni 1994 (Nr.22 / 63.Jg.). ②R.B. 26. Juni 1994 (Nr.25 / 63.Jg.).
- 45) ろうそくには、「聖ヴォルフガング／我らのために祈り給え／感謝して／ザルツカマーグート (Salzkammergut), ザンクト=ヴォルフガングからの巡礼／記念年1994年3月12・13日」と書かれている。このろうそくは、その後実際のミサに使用されている。筆者の観察による。
- 46) 13日の行動は、前掲注18)による。
- 47) オーバーエースターライヒ州には、タウフキルヘンの地名が2ヵ所ある (Taufkirchen a. d. Pr., Taufkirchen a. d. Tr.) が、どちらを指すのか手持ちの資料では判断できない。ただし、いずれもリンツの西方に位置し、リンツ司教区に属する。
- 48) DJKの正式名称は、Deutsche Jugendkraftである。スポーツにおけるキリスト教倫理の実現を目指すカトリック系のスポーツ団体であり、全国連盟の本部はデュッセルドルフ (Düsseldorf) にある。1987年時でクラブ (Verein) 数約1200, 会員数約435000人を数える。*Brockhaus - Enzyklopädie: Bd.5, 1988, S.346.*
- 49) ヴァイデンの近郊に位置する。ヴァイデンについては前掲注14)を参照のこと。
- 50) 資料は、前掲注18)の他、R.B. 22. Mai 1994 (Nr.20 / 63.Jg.)による。
- 51) ろうそくには、「聖ヴォルフガング／我らのために祈り給え／ゲマインデ (Gemeinde) 巡礼／1994年7月7日／ザンクト=マルティヌス, エロルツハイム」と書かれている。ゲマインデは行政村をも意味するが、エロルツハイムに聖マルティヌス教会を中心とする小教区が確認されるので、小教区と判断した。Sekretariat der Deutschen Bischofskonferenz (Hrsg.), *Verzeichnis der Pfarreien und sonstiger Seelsorgestellen der katholischen Kirche in der Bundesrepublik Deutschland 1993, 1993, 901S.* なおこのろうそくは、その後ミサに使用されている。筆者の観察による。
- 52) 資料は、前掲注18)の他、R.B. 3. Juli 1994 (Nr.26 / 63.Jg.)による。

- 53) コルピングファミリー (KF) は、共同生活を通じて相互扶助や修養をめざすカトリック系の団体である。カトリック司祭のコルピング (Kolping) が、職人支援のために1846年に職人組合を創設したのがコルピング活動 (Kolpingwerk) の始まりで、現在世界40ヵ国に4000近いKFがある。会員数 (1989年現在) 約36万人、うち27万人近くはドイツ国内である。ドイツ中央連盟・国際コルピング活動の本部はケルンにある。①前掲注25) ①S.72-73. ②Brockhaus - *Enzyklopädie: Bd.12*, 1990, S.189.
- 54) 前掲注51) の小教区リストによる。ちなみに、タウバービショッフスハイム=ディットヴァー小教区の守護聖人は聖ラウレンティウス (Laurentius) で、聖ヴォルフガングではない。
- 55) 資料は次のとおり。①R.B. 23. Oktober 1994 (Nr.42 / 63.Jg.). ②M.Z. 20. Oktober 1994. ③Kath. Pfarramt St. Emmeram, *Pfarrblatt von St. Emmeram* (以下Pb. E. と略記) 2.-16.10.1994 (Nr. 40/41). ③はザンクト=エメラム小教区の区報である。月日が②と③で食い違うが、③によった。
- 56) 資料は、筆者の観察の他、次のとおり。①R.B. 30. Oktober 1994 (Nr.43 / 63.Jg.). ②M.Z.22/23. Oktober 1994. ③Pb. E. 16.-30.10.1994 (Nr.42/43). ④P.R. Nr.11 (vom 20. 09. 1994).
- 57) この小教区は、教会名だけでなく、地名もヴォルフガングの名前になっている。前掲注51) による。なお、ろうそくには、「ドルフェン近傍ザンクト=ヴォルフガング小教区」とだけ記されている。このろうそくも、実際に使用されている。筆者の観察による。
- 58) 1994年5月19日~21日、筆者の参与観察による。この詳細については、別稿を用意したい。
- 59) 「青少年巡礼」(もっとくだけた表現をすれば「子供巡礼」だが) は、ドイツでは巡礼のひとつのタイプとして定着している。「青少年巡礼」をタイトルにした本もある。Wielgoß, Johannes, *Jugendwallfahrten: Ein Werkbuch*, München: Don Bosco Verlag, 1987, 195S.
- 60) 資料としては、筆者の観察の他、次の記録を参照した。①R.B. 5. Juni 1994 (Nr.22 / 63.Jg.). ②R. B. 10. Juli 1994 (Nr.27 / 63.Jg.). ③M.Z. 23. Juni 1994. ④M.Z. 27. Juni 1994. ⑤Bischöfliches Jugendamt Regensburg, *Diözesanjugendwallfahrt: 25. Juni 1994 nach Regensburg St. Emmeram*. ①は予告(募集)記事, ②は報告記事, ③は予告記事, ④は報告記事, ⑤は巡礼参加者に配布されたパンフレットである。
- 61) ここには、12世紀頃までさかのぼるとされる聖ヴォルフガング教会がある。前掲注38)①S.18-20.
- 62) ここには、その下で聖ヴォルフガングが休憩し説教をしたという伝承を持つヴォルフガングのカシの木 (Wolfgangseiche) がある。前掲注38) ①S.36.
- 63) アンベルクはレーゲンスブルクの北北西約50km, エンスドルフは約38kmのところに位置する。
- 64) 自転車巡礼も巡礼のひとつの型として認知されている。Mielenbrink, Egon, *Beten mit den Füßen: über Geschichte, Frömmigkeit und Praxis von Wallfahrten*, Kevelaer: Verlag Butzon & Bercker; Düsseldorf: Klens-Verlag, 1993, S.97-99.
- 65) Bichler, Albert, *Wallfahrten in Bayern: Ein Führer zu 60 Gnadenstätten*, W. Ludwig Buchverlag, 1990, S.152-155.
- 66) マルタ騎士団 (Malteserorden) ドイツ支部とドイツカリタス会が1953年に創設した、カトリック系の事故救援組織である。最近では社会福祉活動にも力を入れている。ドイツ全土に25の司教区事務所を持つ。会員数50万人以上、事務局はケルンにある。Brockhaus - *Enzyklopädie: Bd.14*, 1991, S.116.
- 67) ちなみに、ここではポピュラーソングの「明日に架ける橋」を歌っている。
- 68) たとえば、カトリック農村青年運動 (KLJB) は食事の屋台の一部を担当しているし、ドイツカトリック青年同盟 (BDKJ) の連帯・協力研究サークルは、亡命をテーマに展示とクイズを行なっている。
- 69) 地理学者リンシェーデの巡礼研究については、次の拙稿で紹介した。小田匡保「ギスベルト=リンシェーデの巡礼研究について」, 駒澤地理30, 1994, 129-141頁。
- 70) Bischöfliches Ordinariat Regensburg (Hrsg.), *Wolfgangsjahr 1994: 1000 Jahre Tod des hl. Wolfgang; Rückblick*, Regensburg: Schnell und Steiner, 1994, 127S.
- 71) ①R.B. 11. Dezember 1994 (Nr.49 / 63.Jg.). ②M.Z. 6. Dezember 1994. ③P.R. Nr.15(vom 24. 11. 1994). ④P.R. Nr.16 (vom 19. 12. 1994).

**Catholic pilgrimage in the southern part of Germany:
some cases in the thousandth anniversary
of the death of Saint Wolfgang**

Masayasu ODA*

European Catholic pilgrimage is hardly known to Japan except for some famous cases like Santiago de Compostela and Lourdes. Though some studies in Europe have been translated and introduced, and some photograph collections have been published, we cannot find any results of detailed field researches by Japanese scholars.

This paper firstly describes some cases of Catholic pilgrimage in the southern part of Germany, particularly focusing on the pilgrimage for Saint Wolfgang in 1994, the thousandth anniversary of his death. Secondly the author attempts to make clear some characteristics of it.

Before going on to the main subject the life of Saint Wolfgang is depicted. He was born in about 925, served more than 20 years as a Bishop of Regensburg (Ratisbon) Diocese, and died in 994. He has been called a patron saint of the Diocese, and his remains have been preserved as relics in the St. Emmeram Church in Regensburg. His worship has been popular from the 14th century, but somehow St. Wolfgang am Wolfgangsee (by Wolfgang Lake) in Austria has become its center.

In 1994 Regensburg Diocese as well as other places held various events for his thousandth anniversary including some pilgrimages. Three important events among them are as follows:

① A diocesan pilgrimage to Mary's pilgrim place Einsiedeln (in Switzerland) where Saint Wolfgang had stayed for some years as a monk in the abbey. Pilgrims led by the Bishop visited from 26 to 29 May not only Einsiedeln but also Sachseln and Flüeli which are concerned with the patron saint of Switzerland, Saint Nicholas von Flüe.

② The feast week for the anniversary from 25 June to 3 July in Regensburg. The schedule is shown in Table 1. Among many events there were some pilgrimages, which included women's pilgrimage, seniors' pilgrimage, KAB (Catholic Laborer Movement) pilgrimage, a pilgrimage from Puppung Parish in Austria, and youth pilgrimage that is later described in detail.

③ The transfer of the relic's shrine of Saint Wolfgang (cf. Photo 6) on 23 September to Puppung where he had died and a diocesan pilgrimage there on 25 September. On their

way back to Regensburg they dropped by a St. Wolfgang Church which is famous for Saint Conrad of Parzham.

There were many other pilgrimages for Saint Wolfgang from/to Regensburg in 1994. Cases A and B are from Regensburg to other places, and in cases C to L pilgrims came to Regensburg.

The author picks up four elements from every case, namely, the pilgrim day of the week, the land (diocese) of origin of the pilgrim group, the spatial unit of the pilgrim group (promoter), and events at the destination. The results are as shown in the Table 2. Through this table following characteristics can be pointed out.

1. Pilgrim days concentrate on Saturday and Sunday. Particularly in case of day trip pilgrimages are made almost on Saturday somehow.

2. Most of the pilgrim groups to Regensburg are from Bayern (Bavaria), which is followed by Oberösterreich in Austria and Baden-Württemberg. Therefore it can be said that the southern part of Germany and a part of Austria are the catchment area of Regensburg in terms of the worship of Saint Wolfgang.

3. Two main spatial units of the pilgrim group are a diocese and a parish. In case of diocesan pilgrimage the group is often formed by a diocesan Catholic organization like a women's society and a laborer's association rather than a diocese itself. In the meanwhile parishes in which pilgrimage is organized often take Saint Wolfgang as their patron.

4. All of the parish pilgrimages in above-mentioned cases are from the outside of Regensburg Diocese, and pilgrims from its inside come to Regensburg as a member of a diocesan pilgrim group. It seems that this year the appeal for pilgrimage from the side of the Diocese has influenced this result.

5. Events at the pilgrim destination include a Mass in every case that the pilgrim schedule is known. It suggests that the pilgrim group is led by, or includes, a clergyman; otherwise it asks some clergyman at the destination for a Mass, or it shares in a regular Mass.

6. In case of pilgrimage by a Catholic organization a meeting is often held in addition to a service. Some pilgrimages have also an element of tourism.

7. Scenes of walking procession can be observed in some pilgrimages, *e.g.*, cases ①, ②-a and ③ (cf. Photo 2 and 4). They could be regarded as traces of walking pilgrimage.

The latter half of the paper describes youth pilgrimage in detail, based on the author's participant observation. It was made on 25 June, the first day of the feast week, promoted by the youth office of Bishop. Early in the morning young pilgrims started from five points around Regensburg and walked to the St. Emmeram Church (Fig. 3 & 4). After arrival a Mass was held from eleven o'clock, and in the afternoon they took part in the

festival of encounter. The course of events is shown in Photo 7 to 16.

It is geographically interesting that the pilgrim route tends to avoid city area and some stations exist on the way where pilgrims hold a service. However, their locations can easily be changed perhaps due to the lack of tradition.

Many of the pilgrimages taken up in this paper were probably made only for the thousandth anniversary. Analyses focusing on annual pilgrimages might lead to another result, which should be a next problem to be solved.

* Department of Geography, Komazawa University, Tokyo